

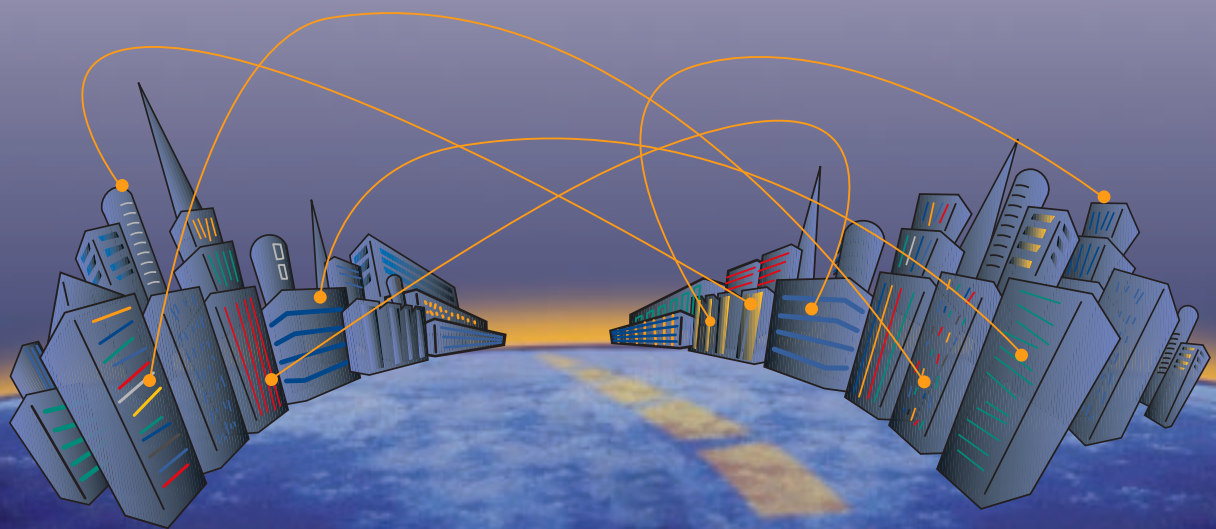


dbMAGIC™

Version 8

Enterprise Edition

用語集



MAGIC
Magic Software Japan K.K.

はじめに

このたびは、dbMAGICをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

dbMAGICは、システム開発の専門的なユーザ（システムアナリスト、システム設計者、プログラマーの方々など）を対象とした、データベースアプリケーション開発のためのツールです。

この「dbMAGIC Ver.8.2 用語集」では、初心者を対象に dbMAGIC 基本となる用語の概念を解説しています。dbMAGIC をご使用になる時にお手元に置いてご活用ください。

1999年2月5日 マジックソフトウェア・ジャパン株式会社

ご注意

- (1) 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- (2) 本マニュアルの内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本マニュアルの内容については万全を期して作成しましたが、万一誤り、お気付きの点などがございましたら、ご連絡くださいますようお願い致します。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

Windows および WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

dbMAGIC はマジックソフトウェア・ジャパン株式会社の商標です。

一般に会社名、製品名は会社の商標または登録商標です。

















Copyright 1999 Magic Software Japan K.K.

目次

第1章 dbMAGIC 用語集	1
1.1 この用語集について	1
1.2 dbMAGIC 用語集	2
第2章 dbMAGIC エラーメッセージ集	1
2.1 エラーメッセージ一覧について	1
2.2 dbMAGIC エラーメッセージ集	1
2.3 MRB エラーメッセージ集	21

機種別キー操作の違い

本マニュアルで使用している特殊キーの表記と実際使用しているコンピュータのキーの表記とは若干異なる場合があります。下記の一覧表を参照してください。

表記	PC-9801	DOS/V
 - 	f.1 - f.10	F1 - F10
	CAPS	Caps Lock
	SHIFT	Shift
	CTRL	Ctrl
	ROOL UP	PageUp
	ROOL DOWN	PageDown
	INS	Insert
	DEL	Delete
	BS	Back Space
	TAB	Tab
 , 		Enter
	GRP	Alt
	HOME CLR	Home
	HELP	End

第1章 dbMAGIC用語集

1.1 この用語集について

この用語集では、dbMAGICアプリケーションの開発および実行時の環境で使用する用語について解説します。この用語集は、dbMAGICの用語に親しんでいただくことを目的としています。dbMAGICエンタープライズ版の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

新機能ガイド

dbMAGIC Version 8の新しい機能についての説明

開発者ガイド

dbMAGICアプリケーションの開発についてのマニュアル

セットアップガイド (HELP ファイル)

dbMAGICのインストールとライセンス供与の手順についてのマニュアル

開発者ガイド - 分散開発編

プラットフォーム別のインストール方法と、それぞれのプラットフォームやオペレーティングシステムごとの詳しい使用方法を解説したマニュアル

チュートリアル

dbMAGIC Version 8の実行チュートリアルのガイド

SQL ガイド

SQLゲートウェイをインストールし、アクティブにする方法と保存形式の詳細を解説するマニュアル

開発者ガイド - インターネット編

インターネット用のdbMAGIC Version 8アプリケーションを開発するためのハンドブック

リファレンス

dbMAGIC Version 8の構成要素を解説するリファレンスマニュアル

なお、この用語集の単語は、五十音順に記載しております。

1.2 dbMAGIC用語集

用語	説明
1対1のリレーション	共通のデータをいくつか持つ2つのテーブル間の関係。第1のテーブルでインデックス値を持つレコードが1レコードである場合、それが第2のテーブルの1レコードに対応する関係をいいます。ふつう、このインデックスは両方のテーブルで重複不可として定義されます。
1対多のリレーション	共通のデータを持つ2つのテーブル間の関係。第1のテーブル(1)では1レコードしかないインデックス値が、第2のテーブル(多)では複数のレコードに存在する関係をいいます。ふつう、第1のテーブルのインデックスは重複不可であり、第2のテーブルのインデックスは重複可です。
APG	Automatic Program Generator の略。「プログラムジェネレータ」を参照のこと。
BLOB	BLOB (Binary Large Object) は、dbMAGIC 以外のアプリケーションによって作成され、サイズの不明なバイナリ情報を含むデータ項目の型です。OLE オブジェクトやビットマップイメージの格納に使用します。NULL 関数は、BLOB の場合正常に機能しません。
Cookie	Cookie は、クライアントのブラウザに保存される HTTP オブジェクトです。クライアントのブラウザが、Cookie により定義された範囲内の URL にアクセスすると、ブラウザは HTTP プロセスの中で Cookie ファイルに保存されているデータを送信します。Cookie は一定範囲のプログラムに対して情報を提供します。これに対して、非表示フィールドは、1つのプログラムのための埋め込み情報であるという点が異なります。
CTL 特性	dbMAGIC の開発モードでのみ有効です。dbMAGIC 環境全体の設定を上書きして、特定のアプリケーションの環境を拡張したり、変更したりするためのパラメータがあります。
dbMAGIC サーバ	データサーバとも言います。dbMAGIC サーバは、dbMAGIC が備えているクライアント / サーバ機能を指します。現在、日本語版 Ver8 ではこの機能はサポートしておりません。dbMAGIC サーバは、クライアント側の dbMAGIC アプリケーションが、サーバ上のデータテーブルをアクセスする際に、ファイル管理や通信処理を行うプログラムです。サーバのハードウェアプラットフォームや OS に依存することなく、クライアントはサーバ側のデータをアクセスすることができます。
dbMAGIC 実行エンジン	アプリケーションサーバとしての dbMAGIC 実行エンジンは、リモートサービスのリクエストを実行することができます。この実行エンジンは、クライアント側でアプリケーションを実行するのに使われるものと、同じ MAGIC 実行ファイルのインスタンスです。
dbMAGIC プログラム	「プログラム」を参照のこと。

用語	説明
DBA	DBA とは、SQL DataBase Administratortor の略語です。 DBA は、物理データベースの定義やバックアップ、復旧処理、ユーザに対するアクセス権の付与などを行う人のことを指します。DBA はまた、必要に応じてデータベースの最適化を行うことがあります。DBA は、通常 RDBMS に対して高いスキルがあり、データベースの設計に精通しています。
DBMS	データベース管理システム。データベーステーブルにデータを記憶したり、データベーステーブルからデータを取得したりするために使用するソフトウェア。
DBMS テーブル	[DBMS (データベース管理システム)] テーブルには、dbMAGIC が認識する DBMS の一覧が含まれています。
DB テーブル	このテーブルには、タスクがオープンするファイルがすべて含まれています。ここには、メインテーブル、リンクテーブルが自動的に表示される他、処理速度の向上をはかるために手作業でテーブルを追加することができます。
DDF 作成	DDF(Data Dictionary File)は、Btrieve のタイプファイルです。「DDF 作成」オプションを使用すると、テーブルリポジトリ上で、定義されているテーブルに対する DDF ファイルを作成することができます。DDF を使用することで、dbMAGIC 以外のデータベースアプリケーションによって、Btrieve ファイル内に保存されたデータを表示することもできます。
DDL	DDL とは、データ定義言語 (SQL Daya Definition Language) の略を指します。 DDL は、データベーステーブルの構造の定義や変更のための処理コマンドの集合で、たとえば、CREATE TABLE や ALTER TABLE は、この DDL のコマンドです。DDL のコマンドとしては、このほか、CREATE VIEW など、テーブルに対して細かい操作を行えるものもあります。CREATE VIEW では、実際のテーブルのウィンドウ (ビュー) を作成することができます。
DML	DML とは、SQL データ操作言語 (SQL Data Manipulation Language) の略です。 DML は、データの変更に関する処理コマンドの集合です。DDL のコマンドではテーブルの構造の定義と変更が可能なのに対して、DML のコマンドでは、テーブルに格納されているデータについて操作を行うことができます。たとえば、DML のコマンドを使用して、データベースのデータを照会したり更新したりできます。SQL の場合、DML のコマンドの構文は、一般に簡単で全体的にも統一されています。
GUI フォームエディタ	オンラインアプリケーション用のフォームエディタ。「フォームエディタ」も参照のこと。
HTML スタイルテーブル	[HTML スタイル] テーブルには、HTML 用のスタイルを定義するための各種のタグが保存できます。

用語	説明
HTML フォームエディタ	HTML フォーム形式のフォームやドキュメントのためのフォームエディタ。「フォームエディタ」も参照のこと。
HTML フレームセットフォームエディタ	HTML フレームセットフォームエディタは、ブラウザのウィンドウが複数のフレームに分割されているような、高度なインターネットドキュメントを作成します。
INI ファイル	各種の環境設定ファイル。「MAGIC.INI ファイル」を参照のこと。
ISAM トランザクション	ISAM トランザクションは、開発中の dbMAGIC の CTL ファイル及び ISAM データファイルのアクセスを保護します。例えば、開発セッションが致命的なエラーのために異常終了した場合、dbMAGIC アプリケーションファイルとすべての ISAM データファイルは、そのままの状態に保たれ、作業内容がすべて保存されます。
Java / テキストフォーム	dbMAGIC アプリケーションのエンドユーザインタフェースとして作成される、Java およびテキストフォーム。
Java フォームエディタ	Java フォーム用のフォームエディタ。
MCF(Magic Control File)	MCF は、dbMAGIC の CTL ファイルの標準的な識別子です。
Magic Request Broker	MRB(Magic Request Broker) は、クライアントからのリクエストと、実行エンジンを監視し、制御することができます。
MAGIC TCP/IP ディスパッチャ	MAGIC の TCP/IP によるクライアント / サーバ通信は、予め指定されたポート上のクライアントリクエストを受信するディスパッチャプロセスに基づいています。このディスパッチャは、クライアントリクエストを受け取ると、そのリクエストを処理するプロセスを作成します。
MAGIC.INI ファイル	MAGIC.INI ファイルには、dbMAGIC の動作環境情報が含まれています。dbMAGIC を起動するには、このファイルを dbMAGIC の作業ディレクトリに入れるか、起動時のコマンドラインで指定しなければなりません。
MAGIC キャッシュ	包括的なアルゴリズムを使用する汎用的なディスクキャッシュとは異なり、MAGIC キャッシュでは、プログラマが、物理データについての知識やアプリケーションの性質に応じてキャッシュを微調整できます。
MAGIC プロファイラ	MAGIC プロファイラを使用すると、作成したアプリケーションの実行時のパフォーマンスと状態に関する情報を収集し、それらを解析してアプリケーションの実行時の特性を調べることができます。
MGCONST	MGCONST.XXX という名の CONST ファイルには、dbMAGIC ユーザ用のインタフェースと言語情報がすべて含まれています。XXX は、言語を示すファイル拡張子です。たとえば MGCONST.JPN はこのファイルの日本語バージョンです。
MVCS	dbMAGIC のバージョン管理システムは、オブジェクトのチェックアウトとチェックイン、アプリケーションのバージョン管理を行うシステムを通して、アプリケーションのオブジェクト(テーブル、プログラム、フォームなど)の変更履歴を管理することができます。

用語	説明
MVCS 無効	[強制 MVCS 無効] 欄は、特定のアプリケーションのワークグループ開発を許可する MVCS コマンドを無効にします。MVCS データベースが破損した等の理由により、CTL をオープンできなかった場合の回避方法としてここを Yes に指定します。
NULL	データ項目がゼロを含むいっさいの値を持たない場合、このデータ項目は NULL 値を持つといいます。NULL 値の取り扱いにはデータベースによって異なり、パラメータの定義済みの書式やタイプに応じてゼロにリセットされる場合もあります。 dbMAGIC では、複数のデータベースのデータにアクセスできるため、開発者は、各パラメータ、タイプ、アプリケーションについて、計算と表示の際に、NULL 値を有効な値として受け入れるかどうか、また NULL 値をどの値で置き換えるかを指定します。
NULL 特性	[NULL 特性] テーブルでは、dbMAGIC の各データ型に対し NULL 値の特性を指定できます。
OLE	Object Linking and Embedding(オブジェクトのリンクと埋め込み)の略。OLE には 2 種類あります。OLE リンクでは、オペレーティングシステム内の別のプログラムに格納されているオブジェクトを dbMAGIC データベース内のリファレンスにリンクします。OLE 埋め込みでは、オペレーションシステムにあるオブジェクトが dbMAGIC データベース内にすべて格納されています。
OS コマンド	[OS コマンド] コマンドは、dbMAGIC から出て外部プログラムを実行します。外部プログラムが終了すると、次の dbMAGIC タスクの実行を再開します。
RDBMS	リレーショナルデータベース管理システムの略語です。 dbMAGIC 製品と一緒に提供されるデータベースゲートウェイを経由して RDBMS にアクセスできます。データベースゲートウェイには、Oracle 用、MS-SQL Server 用、ODBC 用があります。 RDBMS は、SQL のリクエストを処理します。要求されたデータを検索しその結果をリクエストもとに戻します。この処理は、データベースクエリと呼ばれ、SQL という用語の語源となっています。
RPR	レポートジェネレータが作成するレポートをすべて含むファイル。アプリケーションの識別子が XX の場合、デフォルト値は、XXRPR.MCF という名前になります。このファイルの名前と位置は、[アプリケーション] テーブルで指定します。
SQL コマンド	SQL コマンドにより、SQL 文をもとになる SQL データベースに渡すことができます。
UDF	ユーザ定義関数。C 言語で書かれた関数で、dbMAGIC 式内で関数として呼び出せます。30 個までのパラメータをとることができます。
Web サーバ	Web へのアクセスを提供するサーバ。
Web ブラウザ	WWW ページのテキストや画像を閲覧するためのアプリケーション。

用語	説明
アクション	[アクション] コマンドは、アクション関数と呼ばれる関数を実行します。
アクセスキー	テーブル特性または CTL 特性として定義されるセキュリティコード。ファイルにアクセスキーを指定すると、許可されていないアプリケーションからのアクセスを制限できます。
後処理	dbMAGIC エンジンの処理フェーズのひとつです。保存する直前のレコードに対する終了処理 (レコード後処理)、レポートのブレイクレベルに対する終了処理 (ブレイク後処理)、タスクの終了処理 (タスク後処理) があります。
アプリケーション	一般的には、ワープロや表計算などの総合的な機能を実行するソフトウェアシステムのこと、ここでは dbMAGIC で開発されたプログラム製品を指します。 このアプリケーションは、データベースファイルと、データを処理するプログラムを含んでおり、データ入力、帳票出力などの機能を実行して業務上の目的を果たします。「コントロールファイル」も参照のこと。
アプリケーション圧縮	圧縮によって、dbMAGIC アプリケーションの CTL ファイルのサイズを縮小できます。圧縮対象のアプリケーションは、CTL ファイルの作成前定義しておかなければなりません。
アプリケーションイベント	「イベント」を参照のこと。
アプリケーションエンジン	「エンジン」を参照のこと。
アプリケーションサーバ	「サーバ」を参照のこと。
アプリケーションテーブル	[アプリケーション] テーブルは、開発時と実行時に使用できるアプリケーションメニューの一覧を保守するために使用します。このテーブルにあるアプリケーションは [アプリケーションメニュー] に表示されます。この中からアプリケーションを選択する事で、アプリケーションをオープンすることができます。
アプリケーションパーティショニング	「パーティショニング」を参照のこと。
アプリケーションファイル	[アプリケーション] テーブルで定義されたファイルで、[アプリケーション一覧] に表示されます。dbMAGIC Ver8 の場合、アプリケーションファイルの標準的な拡張子は、「MCF」になります。「コントロールファイル」も参照のこと。
暗号化	許可されていないアクセスからファイルを保護するために、ランダム化アルゴリズムに従ってファイルの内容にスクランブルをかけること。暗号化されたファイルは、暗号化アルゴリズムとシードの値がわからないと解読できません。dbMAGIC のセキュリティ許可管理システムでは、もとなる DBMS が暗号化に対応していれば、データファイルと CTL ファイルを暗号化することができます。

用語	説明
アンチェック	ワークグループ環境では、開発者はオブジェクトのチェックアウトを取り消せます。「アンチェック」を実行すると、オブジェクトに対する修正はすべて取り消され、オブジェクトのチェックアウトステータスも取り消されます。
位置付け	dbMAGIC の組み込み機能のひとつであり、メインテーブルまたはリンクテーブルで目的の行を探すための条件を指定します。位置付け処理は、開発モードでもエンドユーザの実行モードでも使用できるオプションです。
イベント	定義済みのトリガから呼び出される dbMAGIC のプログラムまたはタスク。トリガには、キー入力、経過時間、条件の 3 種類があります。
インターネット APG	インターネット APG を使用すると、特定のテーブルに基づいて、インターネットリクエストや HTML フォームなどの dbMAGIC のインターネット機構を使用した照会プログラムまたは結果表示プログラムのプロトタイプを作成できます。
インターネットリクエスト	MAGIC インターネットリクエストは、CGI,ISPI,NSPI の 3 種類のリクエストから構成されます。これらのリクエストは、Web サーバと MRB、またはその他のサポートするミドルウェア間のリンクとして機能します。
インデックス	インデックスは、テーブルリポジトリ上のデータをアクセスする場合に使用します。ユニークインデックスは、データ内に 1 つの特定のレコードの存在しか許可されません。ノンユニークインデックスは、複数のレコードで同じデータを持つことを許可します。
インデックス最適化	[インデックス最適化] メカニズムを設定すると、dbMAGIC は、位置付け / 範囲マスクに明示的に指定されているパラメータをチェックして、検索に最適なインデックスを定義します。
インデックスセグメント	インデックスを構成するカラムの集合です。このカラムの順序がレコードのソート順序を定義します。
インデックステーブル	[インデックス] テーブルには、個々のテーブルのインデックス情報が含まれています。
エディットコマンド	dbMAGIC の処理コマンドのひとつです。テキストファイルをポップアップウィンドウに表示し、エンドユーザが照会または編集できるようにします。
エラーコマンド	[エラー] コマンドにより、開発者はエラーメッセージを表示したり、実行を停止できます。
演算子	算術演算子、論理演算子、文字列演算子があり、式の中で使用します。
エンジン	標準的なループに従ってタスクのデータビューのインスタンスを処理する、dbMAGIC の内部機構。エンジンは、[タスク定義] ウィンドウに設定された命令をそれぞれの処理フェーズで実行します。「処理レベルテーブル」も参照のこと。

用語	説明
エンドユーザ	dbMAGIC アプリケーションの開発者が開発したアプリケーションを使用または実行する人。dbMAGIC のエンドユーザは、実行モードでアプリケーションを実行します。
エンドユーザヘルプ	dbMAGIC には、ユーザが作業中ヘルプ情報を必要なときに参照できる、ヘルプ画面や自動ヘルプを設計するための機能があります。
エンドユーザメニュー	アプリケーションをエンドユーザが使用する場合に使用するメニューです。プルダウンメニューとコンテキストメニューがあります。
親	呼び出されたタスクまたはプログラムに対し、それ以前に読み込まれたタスクまたはプログラム。タスクの親は、プログラム構造においてそのタスクの上位に位置します。
親タスク	呼び出し側タスクまたはプログラムと、呼び出されたタスクまたはプログラムとの関係を示す用語。親タスクは、プログラムツリーで 1 つ上のプログラムまたはタスクです。
オンラインタスク	ユーザが、メインテーブルやリンクテーブルのカラム及び行の間を対話処理を通じて移動するタスク。
開始モード	アプリケーションをオープンした時点での動作モードを定義できます。CTL 特性で指定されていない (N=なし) 場合は、環境設定で指定されたモードで起動します。
開発モード	dbMAGIC アプリケーションを開発または修正するための動作モードです。
外部結合リンク	外部結合リンクは、メインテーブルと結合テーブルの両方が同じデータベースの SQL テーブルの場合に使用できます。 また、メインテーブルと結合テーブルは、多対 1 の関係にならなければなりません。結合テーブル内にメインテーブルと関連するレコードが 1 つまたは、1 つもない状態が必要です。 外部結合リンクは、メインテーブルのレコードと関連のある、結合テーブルのレコードを結合します。もし、関連するレコードがない場合は、NULL を設定します。 関連するテーブルがあれば、「TRUE」を返します。ない場合は、「FALSE」を返します。
書出リンク	リンク方式が「W = 書出」の場合には、dbMAGIC はリンクを構築しようとします。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。 dbMAGIC では、リンクに失敗すると、代入式の内容を基にレコードが作成されます。
拡張ウィンドウ	項目のサイズが大きすぎて現在のフォームに表示できないとき、別のフォームを使用してメモ型項目または文字型項目を表示させるウィンドウ。この設定によって、項目全体を画面に表示できるようになります。

用語	説明
確認リンク	<p>リンク方式が「V = 確認」の場合には、dbMAGIC は「確認リンク」を構築しようとします。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。</p> <p>リンクに失敗すると、タスクがオンラインの場合とバッチの場合とで、dbMAGIC の動作が異なります。</p> <p>バッチタスクの場合：リンクに失敗すると、「照会リンク」として動作します。</p> <p>オンラインタスクの場合：タスクの実行は中断され、警告音とともにエラーメッセージが表示されます。</p>
仮想ファイル	<p>長さの制限のない擬似ファイルで、タスクで定義されたすべての変数項目で構成されます。</p>
カーソル	<p>カーソルは、SQL ステートメントを指すシンボルです。言い換えれば、SQL ステートメントがカーソルの本体ということになります。カーソルをオープンすると、カーソルの本体 (SQL ステートメント) が実行され、結果セットが生成されます。アプリケーションでは、カーソルを使用してデータを取り出すことができます。この場合、データは、結果セットの行を 1 つずつフェッチするという方法で取り出します。</p> <p>ウィンドウズ上の入力位置を示すポインタを表す用語でもあります。</p>
型	<p>「項目の型」を参照のこと。</p>
カラム	<p>カラムはデータベーステーブルの構成要素であり、ここに実際のデータが含まれています。Ver7 までは、「項目」という名前になっていました。</p>
カラムテーブル	<p>[カラム] テーブルには、テーブル内の各カラムの定義情報が含まれています。</p>
カラム特性	<p>カラム特性には、対応するヘルプや記憶形式のようなカラムに関連する情報が指定できます。この情報は、コントロール特性に継承することができます。</p>
カラムの型	<p>カラム内の情報の特性。「文字」型は文字データを含む項目に使用します。</p> <p>「数値」型は数量、「日付」型は日付、「時刻」型は時刻や時間、「論理」型は「真 / 偽」などのバイナリ値にそれぞれ使用します。「メモ」型は、もともになるデータベースにカラムのサイズを関連付けます。「BLOB」型は、dbMAGIC 以外のアプリケーションによって作成され、サイズの不明なバイナリ情報を含みます。「BLOB」型は、OLE オブジェクトやビットマップイメージの格納に使用されます。</p>
環境設定	<p>[環境設定] は、ある HTML フォームから別の HTML フォームに移動する場合に、アプリケーションのコンテキストを維持します。[環境設定] は、「Cookie」や「非表示フィールド」を使用して実行されます。「Cookie」および「非表示フィールド」も参照のこと。</p>

用語	説明
関数	特定の値を返す式が内部に埋め込まれている処理。関数は、たとえば、文字列操作、時間や時刻に関する算術演算、タイプの変換などに使用できます。
キーボード割付	dbMAGIC の組み込みアクションに対するキーボードキーの割り当て。
基本色テーブル	[基本色] テーブルは、前景色と背景色を定義するデータから成り、プリセットされた色、ユーザによる定義色、またはシステムに予約された色を示します。
キャッシュ	「MAGIC キャッシュ」を参照のこと。
行	実際のデータを含む物理的な単位であり、テーブルに格納され、[テーブル] リポジトリで定義されます。1つのテーブルの各行は同じ構成です。1つの SQL 文にて同時に1つまたは複数の行を操作することができます。
強制 MVCS 設定キー	Supervisor は、アプリケーションに対して [強制 MVCS 設定キー] を設定することによって、ワークグループトランザクションへのアクセスを特定のユーザに限定させることができます。 [強制 MVCS 設定キー] 欄は、このキーの所有しているユーザのみ CTL 特性で参照することができます。
クライアント	クライアントとは、ネットワーク上のいろいろな種類のサーバのサービスを利用しているコンピュータのことです。
クラス	[フォーム] テーブルのクラス値が1以上のフォームデータからズームすると、フォームエディタは同じクラス値に属するテーブルからすべてのフォームを表示します。レポートフォームの場合、対応するヘッダ、明細行、フッタのフォームがすべて同時に表示されます。
グループ	「ユーザグループ」を参照のこと。
クロスリファレンス	dbMAGIC のクロスリファレンス機能を使用することで、タイプ、カラム、プログラムなどがどこで使用されているかを検索することができます。
継承	指定した設定内容が自動的に対応づけられること。たとえば、[タイプ特性] ダイアログで選択テーブルプログラムを特定の「タイプ」に対応させると、選択テーブルプログラムは、そのタイプが使われている場合にはいつでもリストの拾いだしに使用できます。つまり、このタイプは、選択テーブルプログラムの可用性を継承したことになります。

用語	説明
結合リンク	<p>このリンク方式は、dbMAGIC の機能と併せて、RDBMS の結合機能を使用して複数のデータベースファイルの読込を行ったり、結合を行ったりするときに使います。この方式では、1 対多のリレーションの作成が可能です。この「結合リンク」は、ユーザがレコードを更新したり、dbMAGIC により再計算が実行されると機能しますが、この「結合リンク」は「確認リンク」として機能します。</p> <p>このリンク方式を指定しておく、タスクでデータビューが作成される際、dbMAGIC により結合テーブルに関する JOIN 構文が生成されます。また、定数と一致条件が入った Where 句も dbMAGIC によって作成され、この Where 句では、メインテーブルと結合テーブルの列の名前が指定されます。</p> <p>この「結合リンク」で JOIN 構文が生成されると、「結合リンク」からは戻りコードとして「True」が返ります。その後、「結合リンク」が「確認リンク」として機能した場合（つまり、ユーザによるレコードの更新や dbMAGIC による再計算が実行された場合）、リンクの作成が試みられ、その結果、リンクレコードの項目の値がレコードのデータビューに表示されます。</p>
ゲートウェイ	<p>特定のデータベース管理システム (DBMS) を使用してデータの記憶と取得を可能にする、ファイル管理サービス用の dbMAGIC モジュール。</p>
言語テーブル	<p>[言語] テーブルには、dbMAGIC の多言語サポート機能が使用する変換ファイルを定義します。</p>
権利	<p>dbMAGIC のユーザ許可管理方式。権利の設定とは、次の 3 つの事項を結びつけるプロセスです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [テーブル] リポジトリや [プログラム] リポジトリなど、dbMAGIC の構成要素 2. 「修正」や「削除」など、その構成要素へのアクセスレベル 3. ユーザ (またはユーザグループ) アプリケーションに対する権利は、[権利] リポジトリに含まれています。 <p>ユーザに権利を割り当てることによる、アプリケーションのエンドユーザとアプリケーション定義に関するセキュリティのために、ユーザ ID とパスワードの管理を行うオプション。</p>
子ウィンドウ	<p>二次的なサブタスクウィンドウ。[フォーム特性] ダイアログの [子ウィンドウ] オプションで、サブタスクのウィンドウをメインタスクの親ウィンドウ内に表示するか、実行時に独立したウィンドウとして表示するかを設定します。</p>
公開権利キー	<p>公開権利キーとは、公開権利のコード名です。公開権利とは、アプリケーションの外部から見ることのできる権利です。</p>
公開プログラム名	<p>公開プログラム名とは、プログラムを外部 (リモートクライアントなど) から起動する場合に参照する外部オブジェクト名です。</p>

用語	説明
高速モード	高速モードは、カーソルの動きによって処理コマンドがどのように処理されるかを定義できる2つのモードのうちの1つです。 高速モードの場合、処理コマンドの実行フラグが高速モードか両用モードのどちらかでないと実行されません。ユーザがマウスでカーソルを別の項目に移動した場合や、上下の矢印キーでやページダウン(アップ)キーでレコード間の移動を行った場合に高速モードに入ります。
項目	データベーステーブルには直接関連付けられていない、すべてのテーブルにあるデータ項目。設定リポジトリ、プログラム、タスク、データビュー、フォームなど。 現在のタスクまたは上位タスクで設定された実データ項目または変数項目で、項目一覧に現われます。
項目一覧	必要に応じていつでも参照できる項目のリストで、現在のタスクと上位タスクで選択された項目がすべて含まれています。
項目更新コマンド	[項目更新] コマンドは、項目に特定の値を代入する場合に使用します。
コードフリープログラミング	一連の手続き的の命令を書かずにプログラムを作成すること。コードとは、通常テキストファイル上に入力される一連の手続き的の命令です。コードは、コンパイルやアセンブル、またはインタープリタなどで解釈された後に実行されます。 dbMAGIC では、数百の命令を 13 の非手続き的処理コマンドで置き換えることにより、コードを廃止しました。プログラムを動作させるための長いロジックを記述する代わりに、プログラムリポジトリにこれらのコマンドを記述することでプログラミングできるようになっています。
コールコマンド	[コール] コマンドには 5 種類あり、さまざまなタイプのサブルーチンの実行に使用します。[コールタスク] はサブタスクを、[コールプログラム] は dbMAGIC プログラム、[コール式] は式記述によるプログラム、更に [コールユーザ PRC] はユーザ定義プロシジャの呼び出しを行います。[コールリモート] は、MAGIC Request Broker を通じてリモートの MAGIC サーバからプログラムを呼び出します。呼び出されたサブルーチンにパラメータを渡したり、逆にサブルーチンからパラメータ値を受け取ることもできます。
子タスク	[コールタスク] コマンドでプログラムから呼び出されるサブタスク。
コマンドパレット	[コマンド] パレットには、コントロールの整列、サイズ変更、上下順の変更を行うためのツールがあります。
コントロール	コントロールとは、フォームの外観を設計する際にフォームに配置できる、定義済みのオブジェクトです。コントロールによって、データの表示、関数の実行、パラメータの設定、テキストラベルの表示などができます。

用語	説明
コントロールのZオーダー	コントロールのZオーダーは、コントロールをフォームに配置するときの、コントロールの順序を表わします。フォーム上のコントロールの上下順を表示または変更するには、メニュー内の [並べ換え] か [コマンド] パレットを使用します。
コントロールパレット	[コントロール] パレットには、dbMAGIC のフォームに配置できる、各種のコントロールが表示されます。dbMAGIC がサポートする [コントロール] パレットには、GUI フォーム用、HTML / ドキュメント形式フォーム用、HTML フレームセットフォーム用、Java フォーム用があります。[
コントロールファイル (CTL ファイル)	dbMAGIC アプリケーションのすべてのオブジェクトが含まれているファイルです。「アプリケーション」も参照のこと。
サーバ	「MAGIC サーバ」を参照のこと。
サーバテーブル	[サーバ] テーブルは、現在インストールされている dbMAGIC でデータベースサービスにアクセスできるリモート MAGIC サーバを定義します。[サーバ] テーブルでは、ローカルの dbMAGIC がそのホストサーバと通信する手段も定義します。
サービステーブル	[サービス] テーブルには、使用するサーバと、そのサーバで実行するアプリケーションを定義します。
サブタスク	親プログラムまたは親タスクに呼び出される子タスク。
サブツリー	プログラムツリーのブランチであり、ツリー関連の操作でグループとして扱います。ただし、ルートタスクは除きます。
シークレット名	シークレット名は、許可管理システムの使用権利の内容を、権利を持たないユーザに対して隠さなければならない場合に使用します。たとえば、アプリケーションファイルのアクセスキーやデータファイルのアクセスキーには、シークレット名を使用しなければなりません。
式	計算に使われる定数または数式であり、[式] テーブルに含まれています。
式テーブル	[式] テーブルには、タスクに対して定義されたすべての式が含まれています。
時刻型	時刻型のデータは、秒数によるカウンターとして記録されます。時刻型項目は、経過時間または絶対時間の値の記録する場合に使用できます。日付型と同様に加算減算が可能です。表示する場合は、指定された書式に基づいて表示させることができます。
実データ項目	「データ項目」を参照のこと。
実行モード	dbMAGIC には、2 種類の操作モードがあります。開発モードと実行モードです。実行モードでは、dbMAGIC アプリケーションに対する変更はできません。

用語	説明
自動プログラムジェネレータ	APG は、指定したテーブルをもとに照会 / データ入出力 / 印刷のスケルトンプログラムを作成または即時に実行させることのできる機能です。APG で作成したプログラムをもとにいろいろな機能を追加させることができます。 「プログラムジェネレータ」を参照のこと。
出力フォーム	レコードをテキストファイルや出力デバイスに書き出すときは、出力フォームで出力するレイアウトを指定します。
上位タスク	コールコマンドにによって起動された結果として上位タスクという関係が成立します。プログラムツリー上の親の位置に該当します。
照会	dbMAGIC プログラムジェネレータのオプションのひとつで、オンラインデータ入力と保守用のプログラムを実行または作成します。
照合順序	ASCII 照合順序とは異なるインデックスのソート順序。照合順序は、「照合順序ファイル」で定義されます。
照会リンク	リンク方式が「Q = 照会」の場合に、dbMAGIC はリンクを構築しようとします。リンクに成功すると、リンクレコードの選択された項目のデータが、データビューに取り込まれます。 リンクに失敗すると、項目の型に従ってそのデフォルト値が代入されます。
使用権利	「権利」を参照のこと。
常駐タスク	常駐タスクとは、起動時にメモリにロードされ、起動もとのタスク (またはプログラム) が終了するまでメモリ上に常駐されるタスク (またはプログラム) を指します。
常駐テーブル	常駐テーブル機能を使用することで、開発者は、ディスク入出力を減らしたり、クライアント / サーバディスク環境でのネットワークトラフィックを減らすことにより、システムのパフォーマンスを向上させることができます。
初期モード	タスク特性の設定項目のひとつで、タスクの実行を開始する時の処理モードを指定します。
書式	データ項目の表示のしかた。データ項目の書式には、書式文字が使用できます。
処理テーブル	[タスク定義] ウィンドウの下部には、強調表示されているレベルに対応する処理テーブルが表示されます。タスク定義のタイトルには、それらの処理に関連する以下のような実行レベル名が表示されます：レコードメイン、レコード前処理、レコード後処理、ブレイク前処理、ブレイク後処理、タスク前処理、タスク後処理。
シンボル名	[式] テーブルで使用する [項目一覧] の各項目に対応づけられたコード。
数値型	データ型のひとつ。dbMAGIC は 18 桁までサポートします。ただし、桁数と 10 進数字はそれぞれの近似値まで切り上げます。

用語	説明
スーパー権利キー	スーパー権利キーは、その所有者に特定のアプリケーションへの全処理についてすべての使用権利を許可します。
ズーム	[フロー] 欄に [後置] モードまたは [前置] モードを設定すると可能になるアクション。ズームは、関連ウィンドウをポップアップさせたり (コールタスクコマンド)、ブロック内で一連の処理コマンドを実行したり (ブロックコマンドとブロック終了コマンド) する場合に使用します。ズームできる場合は、ステータス行にズームインジケータが表示されます。
スクリーンモード	スクリーンモードでは、テーブルの行を各画面に 1 行ずつ表示します。これは 1 行に多くのカラムがあり、表示しきれない場合に使用します。
セキュリティファイル	セキュリティファイルには、[シークレット名] テーブルが含まれています。セキュリティファイルは暗号化されます。
設定	dbMAGIC 環境のグローバルな定義項目が表示されるプルダウンメニュー。以下は、メニュー項目です。 アプリケーション、動作環境、基本色、フォント、サーバ、サービス、ビジュアル接続、通信ゲートウェイ、DBMS、データベース、論理名、言語、プリンタ、HTML スタイル、プリンタ属性、シークレット名、ユーザグループ、ユーザ ID。
選択プログラム	選択プログラムは、タイプ、カラム、変数、コントロールの各特性で指定します。選択プログラムが定義されている表示項目にカーソルが置かれている場合、ズームアクションで指定したプログラムが起動されます。
テーブル選択プログラム	タスク特性の設定欄のひとつで、テーブルの内容から選択するためのプログラムとして動作するように定義します。このようなタスクは、ENTER を押すと、レコード後処理を実行して、終了時に、現在強調表示されているレコードの情報をパラメータを介して渡します。この選択プログラムは、タイプ、テーブル、コントロールに対して設定します。対応づけられたタイプ、テーブル、コントロールでカーソルがパークすると、ズームアクションでこのプログラムが実行されます。
処理コマンド	タスク定義では、13 種類の処理コマンドの一覧から必要なものを選択し、処理できます。
セレクトコマンド	セレクトコマンドは、タスクの論理レコードを作成するための要素を定義し、同時にタスクで使用する項目を定義するコマンドです。d
ソート	選択されたパラメータに基づき、一時的にアクティブになるインデックス。この機能は開発者とエンドユーザ共に実行できます。
タイプ	[タイプ] リポジトリに定義された項目で、アプリケーション全体で再使用できます。プログラマが項目の属性として指定します。
タイプ特性	タイプ特性ダイアログは、ヘルプ画面や記憶形式など、このタイプを使用する全てのカラムに継承される設定を定義するものです。

用語	説明
タイプ変換	開発者がタイプの構成要素を修正すると、[タイプ]リポジトリの終了時に dbMAGIC が自動的に変換処理を開始します。データベーステーブルとプログラムを走査して、システム全体に変更内容を反映させます。
タイプリポジトリ	タイプリポジトリには、開発者がテーブルのカラムを定義する場合のプロトタイプとして予めデータの書式を登録する場合に使用します。アプリケーションを作成する場合、こういったデータ項目が必要になるか、事前に検討しなければなりません。その場合、データ項目の中に型や書式、範囲が同じものがないかどうかを考え、あれば、そういったデータ項目を型、書式、範囲に応じてグループにまとめます。タイプで定義できる型には、文字型、数値型、論理型、日付型、時刻型、メモ型、BLOB 型があります。
ダイレクト SQL	ダイレクト SQL には、ビルトイン SQL サポート (非明示レベル) と、埋め込み SQL (明示レベル) があります。dbMAGIC に組み込まれた SQL サポートにより、開発者は SQL ベースの各種リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) に接続、アクセスするアプリケーションを設計できます。
多言語サポート	dbMAGIC の多言語サポート (MLS) によって、開発者は 1 つの言語で作成したアプリケーションを実行時に多数の言語で表示させることができます。
タスク	dbMAGIC エンジンがデータビュー上で実行するプロセスを制御するための、アプリケーションルールのセット。[プログラム]リポジトリに含まれるタスクは、プログラムと呼ばれます。
タスク後処理	「後処理」を参照のこと。
タスクウィンドウ	選択した項目や式をコントロールとして配置する、メイン画面またはフォーム。
タスク処理レベルテーブル	「処理レベルテーブル」を参照のこと。
タスク制御	[タスク制御]で設定するパラメータは、実行時のタスクの動作を制御するために使用します。
タスクタイプ	タスクの種類です。オンラインまたはバッチのいずれかを指定します。
タスク定義ウィンドウ	タスク定義ウィンドウには、データビュー処理の各フェーズで実行される処理が示されています。タスク定義ウィンドウは、レコードレベル、ブレイクレベル、タスクレベルで構成されています。
タスク特性	タスク特性とは、プログラムやタスクの実行特性を定義するものです。
タスク番号	タスク番号は、タスクの階層をもとに自タスクを基準にした世代番号です。関数のパラメータとして使用されます。たとえば、 0 ならばカレントタスク 1 ならば親タスク 2 ならばその上の親タスク

用語	説明
タスクレベル	タスク前処理とタスク後処理のレベルのことで、それぞれタスクの開始時と終了時に実行されます。「レベル」を参照のこと。
チェックアウト	[チェックアウト]は、ワークグループ開発機能のひとつです。ワークグループ環境においてオブジェクトをチェックアウトすると、チェックアウトしたユーザだけがそのオブジェクトを編集できるようになります。
チェックイン	[チェックイン]は、ワークグループ開発機能のひとつです。編集後のオブジェクトをチェックインすると、オブジェクトをアプリケーションに戻すことができます。
中止パラメータ	[項目更新]コマンドのオプションのひとつであり、エンドユーザによる更新の取り消しを禁止することにより、更新後のレコードを保存します。
通信ゲートウェイテーブル	[通信ゲートウェイ]テーブルには、dbMAGIC 起動時にロードされる通信ドライバを指定できます。
通常モード	通常モードは、カーソルの動きにより処理コマンドがどのように実行されるかを定義するモードの1つです。通常モードに入った場合、カーソルが次項目か前項目に移る操作を行ったときのみ処理コマンドが実行されます。
ツリー	「プログラムツリー」を参照のこと。
定義取得	1つまたは複数のテーブル定義情報をデータベースから [テーブル]リポジトリへ読み込みます。
データ項目	カラム、パラメータ、変数など、データの要素のこと。
データ辞書	データを定義するために組み合わせて使うオブジェクトを集めたものを、総称して「データ辞書」といいます。[テーブル]リポジトリ、[タイプ]リポジトリ、[カラム]テーブルなどがあります。
データ入力コマンド	[データ入力]コマンドを使用することで、テキストファイルまたは入力デバイスからデータを読み取り、その内容を入力フォームで定義される項目にロードすることができます。
データの完全性	データの完全性とは、データの内容がデータベース上のものと完全に一致することを言います。
データビュー	アプリケーションのメインテーブルやリンクテーブルから選択した、実データ項目と変数項目によって定義される論理レコードの集合体。
データベーステーブル	[データベース]テーブルには、現在インストールされている dbMAGIC からアクセスできるすべての物理データベースについて、その詳細情報が登録されています。
テーブル	テーブルとは、データの内容を2次元で表示させたものです。RDBMS上の各テーブルは、ユニークな名前を持っており、それぞれが ISAMでのファイルに該当します。テーブル上の全てのデータは特定のトピックと関連しており、カラムと行(Row)で構成されています。テーブルは、[テーブル]リポジトリで定義します。

用語	説明
テーブル定義取得	dbMAGIC のユーティリティのひとつであり、DBMS のデータ辞書からテーブル定義を直接ロードできます。データベースからは、1 つまたは複数のテーブル定義をロードできます。テーブル定義取得ユーティリティは、ロード機能を実行できるゲートウェイでのみ動作します。
テーブル変換	インデックスの変更、カラム定義の修正、カラムの追加が行われた際に、dbMAGIC が [テーブル] リポジトリのカラムに定義されたレイアウトを使用して自動的に物理データを整列させること。
テーブルリポジトリ	テーブルリポジトリは、アプリケーションで使用する全てのテーブルを定義しているオブジェクトです。
テキスト形式フォーム	GUI 形式に対応していないアプリケーションやテキストファイルを出力する場合、テキスト形式フォームを使用します。dbMAGIC のフォームエディタは Windows の GUI インターフェースを使用してフォームの編集を行うことができます。
動作環境ダイアログ	[動作環境] ダイアログには、実行時と開発時のシステムを構成するグローバルな dbMAGIC の設定がすべて含まれています。
ドキュメントテンプレート機能	ドキュメントテンプレート機能を使用すると、テーブル、リポジトリ、ダイアログ、エンドユーザ用フォームなど、特定のアプリケーションに対する構成要素をプリンタ出力できます。これらの出力内容は、開発者用のドキュメントとして利用することができます。
特性	特性とは、dbMAGIC の各オブジェクト (タイプ、テーブル、カラム、インデックス、フォーム、タスク、エンドユーザメニューなど) の詳細な動作条件を指します。
トランザクション	トランザクションは、データベースに関する何らかの処理で、単一もしくは複数の SQL ステートメントで構成されます。トランザクションを構成する SQL ステートメントは、通常、相互に密接に関連していますが、実際には別個に独立して機能します。トランザクションを構成する SQL ステートメントは、トランザクションの中の論理単位と考えることもできます。 アプリケーションで、データベース中の複数のテーブルに対して更新を行う場合、トランザクションはデータベースの整合性に注意して定義しなければなりません。
トリガー	データベーストリガは、INSERT ,UPDATE,DELETE の様に SQL ステートメント や ストアドプロシージャ でトリガとなるデータベース イベントを言います。構文は、RDBMS によって異なります。
入出力ファイル	データの読み書きに使用するテキストファイルで、通常は非データベースファイルです。
入出力ファイルテーブル	[入出力ファイル] テーブルには、タスクでオープンされるすべての入出力ファイルが含まれています。

用語	説明
入力フォーム	テキストファイルや入力デバイスからデータを入力する場合の入力書式を定義するフォームです。ここに、入力対象となるカラムや変数を定義します。
バージョン管理マネージャ	バージョン管理マネージャは、dbMAGIC アプリケーションに対するすべての修正内容の履歴ログを保守します。アプリケーションのレビジョンは、将来参照できるようにすべてデータベースに保存されます。バージョン管理マネージャは、次の階層にしたがってアプリケーションに対する修正内容を追跡します。 メジャーレビジョン、変更区分、マイナーレビジョン。
パーティショニング	パーティショニングによって、ユーザはリモートコンピュータ(サーバ)上にある任意の dbMAGIC アプリケーションプログラムを実行できます。
バッチタスク	dbMAGIC が自動的にループしてメインテーブル全体を処理するタスク。エンドユーザとの対話処理は必要ありません。たとえば、印刷プログラムやバッチ入力プログラムなどがあります。
パラメータ	[コール] コマンドの [パラメータ] オプションを通じて、あるプログラムやタスクから別のプログラムやタスクに渡される項目。
範囲	データビューのレコードの範囲を指定する下限値と上限値。範囲欄に設定した範囲は、タスク制御で選択される項目(実データ項目と変数項目)や範囲式に影響します。エンドユーザもプログラム実行中に範囲を設定できます。
ビジュアル接続	[ビジュアル接続] は、dbMAGIC の特定のサービスと使用できるサーバとの間の接続を表示します。[ビジュアル接続] に表示された接続線を変更することによって、サーバ接続を変更できます。
日付型	日付型は通常、内部では「数値」型で記憶されます。ただし、文字型として指定することもできます。数値型の場合は、0001/01/01(または、1901/01/01)からの経過日数のカウント値として格納されます。この場合は、数値型項目と同じように加算処理が可能です。フォーム上には、指定された日付書式で表示されます。
非手続的処理	dbMAGIC により各タスクで自動的に行われる自動的な動作で、DB テーブルのオープン、入出力ファイルのオープン、データビューの構築、レコード処理後の各レコードの保存などがあります。
非表示フィールド	環境設定は、HTML フォームに追加された表示字フィールドを使用して設定することもできます。HTML フォームで非表示フィールドを使用して環境設定を設定した場合、その設定は、そのフォームからインターネットリクエストによって直接呼び出されるプログラムでのみ有効です。したがって、後続のプログラムで、先行のプログラムのフォームと同じ環境設定を使いたいときには、各プログラムのフォームでそれぞれ環境設定を定義しなければなりません。

用語	説明
ビュー	<p>ビューは SQL 上の”仮想テーブル”です。ビューの元になるテーブルはベース テーブルと呼ばれます。ビューの定義 (ビューの元になるベース テーブル) は、データベースに格納されます。表示されるデータはベース テーブルのみに格納されています。</p> <p>ビューを使うことで、セキュリティの確保や DML ステートメントの簡略化、処理速度の向上も見込めます。</p> <p>ビューにはいくつか制限もあります。たとえば、複数のテーブルをもとに作成したビューでは、データを挿入することはできませんし、データの更新や削除も不可能です。また、SELECT ステートメントでカラム名のほかに式を使用してカラムを指定し、その SELECT ステートメントでビューを作成した場合、作成されたビューでは、内容の更新はできません。</p>
ファイル	<p>dbMAGIC には 2 種類のファイルがあります。外部参照ファイルと、入出力ファイルです。</p> <p>外部参照ファイルは、dbMAGIC とは、別の場所に配置された環境情報などを格納したファイルです。入出力ファイルは、データ入出力コマンドにて入出力の対象となるファイルです。</p>
フォーム	<p>フォームは以下の設計に使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タスクのメイン画面のレイアウト。項目と式をコントロールとして配置します。 2. タスクが拡張ウィンドウとして使用する追加のウィンドウ、あるいは、呼び出されたタスクやプログラムを呼び出し元のタスクのウィンドウ内に表示するためのウィンドウ。 3. レポートレイアウト。レポートヘッダ、レポート明細行、レポートフッタ、テキスト (入出力) ファイルのレコードのレイアウトが含まれます。
フォームエディタ	<p>フォームエディタは、[フォーム] テーブルの各フォームに対して定義されたフレームと内容を表示します。これを使うと、さまざまなウィンドウ、レポート、テーブルレイアウトをタスクごとに設計できます。</p>
フォーム作成	<p>開発モードでフォームを作成する dbMAGIC 機能。</p>
フォーム自動作成	<p>[レコードメイン] で定義されているセレクトコマンドの順序に基づき、タスクのメイン画面や帳票フォームを自動的に作成する dbMAGIC の機能。</p>
フォームテーブル	<p>[フォーム] テーブルには、すべてのウィンドウ、レポート、文字入出力レイアウトのパラメータが含まれています。</p>

用語	説明
フォームテンプレート	<p>フォームテンプレートは、現在オープンしているフォームのレイアウト情報を保存したファイルを指します。</p> <p>テンプレートには、フォームの外観に関する情報は含まれますが、フォームの動作に関する情報は除かれます。テンプレートにはほとんどのコントロールとコントロール特性の情報が含まれますが、コントロール特性のうち、以下のものは含まれません。</p> <p>[コントロール名] [式] [データ] [ヘルプ画面] [自動ヘルプ] [ツールチップ]</p>
プリンタ属性	[プリンタ属性] テーブルは、実際のプリンタコマンドをアプリケーションの出力フォームに対応づけることにより、印刷される帳票の書式を制御するために使用されます。[
プリンタテーブル	現在インストールされている dbMAGIC で使用できる出力デバイスとその属性の一覧です。テーブルの各データは論理プリンタです。dbMAGIC アプリケーションが参照するのは論理プリンタのみです。
ブレイク後処理	「後処理」を参照のこと。
ブレイク前処理	「前処理」を参照のこと。
ブレイクレベル	dbMAGIC エンジンのレベルのひとつであり、次の 2 つの処理テーブルを参照します: ブレイク前処理、ブレイク後処理。ブレイクレベルはバッチプログラムでのみ使用し、アクティブキーとして設定した 1 つまたは複数の項目の値が変化すると、処理を実行します。通常は、レポートの集計を出力するために使います。
フロー	<p>フローは、処理テーブル上の各処理コマンドに対して 2 つの異なるパラメータとして設定することができます。[フロー] 欄で所定の値を設定すれば、実行モード時にエンドユーザによるカーソル操作が更に追加できます。</p> <p>最初の [フロー] 欄は、高速、通常、両用モードの指定です。2 番目は、エンドユーザに対してズーム処理を実行させるための条件設定を行うことができます。</p>
プログラム	プログラムツリーの階層構造によって関係付けられた 1 つまたは複数のタスク。[プログラム] リポジトリのプログラム名は、ツリーのルートタスクの名前です。開発者はこのルートタスクを、オンラインプログラムまたはバッチプログラムとして定義できます。
プログラム作成	開発モードでプログラムを作成する dbMAGIC 機能。ただし、プログラムの実行は行いません。
プログラムジェネレータ	照会、入力、出力のプログラムを作成する dbMAGIC の機能です。一時的なプログラムとして作成する ([実行]) か、プログラムリポジトリ内で永続的なプログラムとして作成します ([作成])。
プログラムチェッカ	[プログラムチェック] オプションから呼び出すユーティリティです。タイプ、テーブル、プログラムの文法上の誤りをチェックします。
プログラムチェックユーティリティ	プログラムチェックユーティリティは、タイプ、テーブル、プログラム、及び各タスクについて、構文上の誤りをチェックします。

用語	説明
プログラムツリー	プログラムツリーは、メインプログラムとその子タスクとして定義されたタスクをすべて表示します。コーププログラムで呼び出すプログラムは表示しません。
プログラムリポジトリ	[プログラム]リポジトリは、アプリケーション内で開発された各プログラムで構成されています。
プログラムロールバック	バージョン管理マネージャによってプログラムを以前のレビジョンに戻す機能を指します。
ブロックコマンド	一定の条件のもとで実行される、1つまたは複数の処理コマンドのグループを指定するための処理コマンド。
フローモニタ	dbMAGIC のデバック機能です。実行中のプログラムのフローを表示したり、ブレイクポイントを指定することでフローの動きを監視したりすることができます。
ヘッダ	同じクラスのフォームを印刷しているとき、EOP(End-of-page) に到達するたびにヘッダタイトルを印刷するように設定するフォーム定義。[フォーム]テーブルでは、各ヘッダフォーム定義を明細行フォーム定義の直前に配置しなければなりません。
ヘルプ画面	アプリケーションの適当なところでヘルプを表示させるためのヘルプの設計機能です。「エンドユーザヘルプ」を参照のこと。
変換	「テーブル変換」および「タイプ変換」を参照のこと。
変換ファイル	プリンタテーブルの [変換ファイル] 欄には、印刷に必要な変換ファイルの場所と名前(オペレーティングシステムでの名前)を指定します。この変換ファイルには、dbMAGIC の内部キャラクタコードと物理プリンタのコードの対応表を置きます。変換ファイルには 256 までの文字列を定義することができ、それぞれ、ASCII キャラクタコード (dbMAGIC の内部キャラクタセット) を対応させます。このファイルで指定した文字列がプリンタに送られます。プリンタに送られる文字列には、シングルキャラクタコードのほか、マルチキャラクタコードを定義することもできます。また、制御コードも定義できます。
変更区分	[変更区分]では、マイナーレビジョンがサブジェクト別にグループ化され、簡単にレビジョンを追跡できます。
変数カラムテーブル	変数カラムテーブルは仮想テーブルです。全てのタスクで定義することができます。
変数項目	タスクの実行中に、累計、戻り値、範囲指定などのために一時的に使用する項目。
マージ出力コマンド	[マージ出力]コマンドを使用すると、開発者は MAGIC アプリケーションのデータと外部の標準テンプレートファイルをマージして出力することができます。
マイナーレビジョン	マイナーレビジョンは、チェックインされたオブジェクトのバージョン管理データベースに自動的に登録されます。

用語	説明
前処理	dbMAGIC エンジンの処理レベルのひとつで、タスクの初期化（タスク前処理）、ブレイクレベルの初期化（ブレイク前処理）、個々のレコード処理の初期化（レコード前処理）などを行います。「レベル」も参照のこと。
マルチインスタンス実行	Windows 95 および Windows NT のもとでの dbMAGIC は、同一コンピュータ上で同時に複数回ロードできます。実行中の dbMAGIC をオープンすると、dbMAGIC のインスタンスを新たにロードできます。dbMAGIC の異なるインスタンスは、マルチユーザ環境における異なるユーザとみなされます。
メインテーブル	メインテーブルは、プログラムの処理対象として中心となるテーブルです。「レコードループ」も参照のこと。
メニュー 特性	メニュー特性ダイアログには、エンドユーザメニューのさまざまな追加情報を設定することができます。たとえば、メニューとヘルプ画面を関連付けたりすることができます。
メジャーレビジョン	スーパーバイザがバージョン管理システムを起動すると、最初のメジャーレビジョンが設定されます。バージョン管理データベースには、各メジャーレビジョンについて、以下の情報が保存されます：メジャーレビジョン名、日付、時刻、ユーザ名、ユーザコメント。
メモ型	可変長文字のデータ型。dbMAGIC は、もともになるデータベースでの最も近い型を使用し、このデータ型を可変長形式で記憶します。
文字型	英数字の文字列で定義されるデータ項目の型。変数項目でも実カラムの場合でも最大長は 32K までです。
ユーザ ID	[ユーザ ID] テーブルでは、各ユーザにパスワードや所属するグループが割り当てられます。[ユーザ ID] テーブルへのアクセス権があるのはスーパーバイザだけで、スーパーバイザはユーザ ID を追加、削除できます。
ユーザグループ	セキュリティシステムにおいて、dbMAGIC オブジェクトに対して同じアクセス権を持つユーザの集まりを分類します。許可管理システムでは、個々のユーザまたはグループに権利を割り当てることができます。ユーザは複数のグループに所属していてもかまいません。
ユーザプロシジャ	[コールユーザ PRC] コマンドを使用して dbMAGIC プログラム内で呼び出す、C または Pascal 言語の関数。ユーザプロシジャを使用するには、dbMAGIC 付属のインストールファイルでプラットフォーム所定の準備を行わなければなりません。
ライセンス管理	ライセンス管理は、ライセンスマネージャで行います。ライセンスの追加、削除などを行う場合は、ライセンスマネージャが必要です。

用語	説明
ラインモード	dbMAGIC プログラムのオンラインモードには、2種類のレコード表示モードがあります。レコードをラインモードで表示すると、パラメータはすべて1行に並べられ、各パラメータの上にはそれぞれのファイルタイトルが表示されます。ラインモードで表示されたレコード間を移動するには、矢印キーかスクロールバーを使用してスクロールアップまたはスクロールダウンします。
リクエストクライアント	リクエストクライアントは、MRB にリクエストを出すメカニズムです。
リテラル	リテラルとは、数値または文字列で書かれた定数で、[式] テーブルで使用します。リテラルを使用して作成した式は、アプリケーションのほかの部分を変更した場合でも整合性が保たれます。
リポジットリ	リポジットリとは、テーブル形式で構成されている基本的な dbMAGIC のオブジェクトとアプリケーションの定義要素です。
リポジットリ入出力	dbMAGIC のリポジットリ入出力機能は、アプリケーションの構成要素を移植または変換できる機能です。提供されるサービスには、以下のものがあります。 他のアプリケーションオブジェクトの取り込み。 下位バージョンや異なったプラットフォームで開発されたアプリケーションの変換。 同じアプリケーションの出力後の再取り込み。 ドキュメントの自動作成などがあります。
リンクコマンド	dbMAGIC の処理コマンドのひとつであり、メインテーブルから選択したカラムの値を使用して、別のデータベーステーブルのレコードと関連付けることができます。「照会リンク」、「確認リンク」、「書出リンク」、「結合リンク」も参照のこと。
リンクテーブル	[リンク] コマンドによって、dbMAGIC プログラムで使用できるようになるテーブル。
レコード	「論理レコード」を参照のこと。
レコード後処理	「後処理」を参照のこと。
レコード前処理	「前処理」を参照のこと。
レコードメイン	セレクト項目、リンク、範囲によってデータビューを定義する [実行] リポジットリ。レコードメインでは、カーソルの移動経路に基づくタスクの動作や、ある項目から別の項目に移動する場合の操作についても設定できます。
レコードループ	1つのレコードが読み込まれてから、それが保存され、次のレコードが読み込まれるまでの間に行われるすべての処理。このループのレコードは、メインテーブルやリンクテーブルから取り込まれます。オンラインタスクの場合、レコードループには、レコード前処理、レコードメイン、レコード後処理によって定義された手続き的処理が含まれます。バッチタスクの場合は、レコード前処理とレコード後処理が含まれます。

用語	説明
レポートジェネレータ	レポートジェネレータは、エンドユーザが出力帳票を作成することのできる機能です。開発者が帳票印刷プログラムを作成する場合にも利用することができます。作成した内容は、レポートファイル(拡張子が RPR のファイル)に格納されます。
レベル	dbMAGIC であらかじめ定義されているタスク実行ループの中のフェーズ。以下の各レベルにおいて、指定した一連の操作が実行されます：レコードレベル(レコード前処理、レコードメイン、レコード後処理)、ブレイクレベル(ブレイク前処理、ブレイク後処理)、タスクレベル(タスク前処理、タスク後処理)。
ログオン	[ログオン]ダイアログでは、dbMAGIC 開発者またはエンドユーザのユーザ ID とパスワードを指定します。
ロック方式	[ロック方式]は、現在のタスクが処理しているレコードに対して他のユーザがアクセスすることを防ぐために、dbMAGIC がロックを行うタイミングや状態を定義するパラメータです。必要に応じて、メモリ内の情報と実データとの検証も行います。
論理型	0 または 1 の値を持つ 1 バイト項目として記憶されるデータ項目の型です。0 が False、1 が True を表します。真 / 偽、黒 / 白、Yes / No など、対になった値を格納する場合に論理型を使用します。
論理名	dbMAGIC 内で使用するパス名などの定義文字列です。、実行時に dbMAGIC が実際の値で置き換えます。論理名と実際の値の対応付けについては、[論理名]テーブルで定義します。
論理レコード	メインテーブルと任意のリンクテーブルから選択したすべての項目(実データ項目と変数項目)に基づいて、メモリ上に仮想的に作成されたレコード。
ワークグループ開発モード	ワークグループ開発の主要な構成要素は、チ - ム開発とバージョン管理です。 チ - ム開発は複数の開発者による同一のアプリケーションにおける並行開発を管理します。 バージョン管理はアプリケーション内の変更履歴と変更内を管理します。

第2章 dbMAGIC エラーメッセージ集

2.1 エラーメッセージ一覧について

ここでは、dbMAGIC で表示されるエラーメッセージについて解説します。
Gateway に関するエラーについては、各 Gateway のマニュアルが使用される RDBMS のマニュアルを参照してください。

2.2 dbMAGIC エラーメッセージ集

環境設定エラー

メッセージ	説明
HTML スタイルファイルがオープンできませんでした。	[動作環境] や CTL 特性で指定した HTML スタイルファイルが存在していません。
サーバが見つからないかサーバタイプが間違っています。	サービステーブルのサーバ名か代替サーバ名がサーバテーブルに存在しません。 [動作環境] ダイアログのメッセージサーバの指定が間違っています。 [データベース] テーブルの MAGIC サーバの指定が間違っています。
アプリケーション名と公開プログラム名は必須入力です。	コールリモートのパラメータとしてサービス名と公開プログラム名は必ず指定しなければなりません。
キーボード割付ファイルがオープンできませんでした。	[動作環境] や CTL 特性で指定したキーボード割付ファイルが存在しません。
ここでは ',' は使用できません。	[DBMS] テーブルか [データベース] テーブルの名前にカンマ (,) が設定されています。 フォント名にカンマがあります。カンマは、区切り文字として扱われフォント名には使用できません。 基本色名にカンマがあります。カンマは、区切り文字として扱われ基本色名には使用できません。
ここでは '=' 記号を使えません。	[DBMS] テーブルか [データベース] テーブルの名前に = が設定されています。 [論理名] テーブルの名前に = が設定されています。 [通信ゲートウェイ] テーブルの名前に = が設定されています。
サーバテーブルに同じ名前のサーバがあります。	[サーバ] テーブルに同じ名前がすでに登録されています。
テーブルに同じ名前があります。	[DBMS] テーブル、[データベース] テーブル、[論理名] テーブルに同じ名前がすでに登録されています。
パーティショニングエラー：メッセージゲートウェイがインストールされていません。	MQ Series を使用して通信処理を行う際に、MQ Series キューマネージャがロードされていない場合に表示されます。

メッセージ	説明
フォント定義ファイルがオープンできませんでした。	[動作環境] や CTL 特性で定義されたフォント定義ファイルが見つかりませんでした。
プリンタテーブルに同じ名前があります。	プリンタテーブルに同じ名前のプリンタがすでに登録されています。
プリンタ属性ファイルがオープンできません。	[動作環境] や CTL 特性で指定したプリンタ属性ファイルが存在していません。
プログラム/タスクとイベントを関連付けてください。	タスクイベントテーブルの [Prg/Tsk] 欄が指定されていません。
メモリが不足しています	使用できるメモリが不足しています。
押されたキーは設定できません。	[キーボード割付] テーブルで設定されたショートカットキーが不当です。
基本色設定ファイルがオープンできませんでした。	[動作環境] や CTL 特性で定義された基本色定義ファイルが見つかりませんでした。
言語テーブルに同じ名前がありません	言語テーブルに同じ名前の言語がすでに登録されています。
通貨変換ファイルがオープンできませんでした。	CTL 特性で定義された通貨変換ファイルが存在していません。
通貨変換ファイルの一部をロードできませんでした。不当なレコードがありました。	CTL 特性で定義された通貨変換ファイルに問題があるため読み込みできませんでした。
通信ゲートウェイがロードされていません。	通信ゲートウェイ (MGWSOCK.DLL) がロード出来ませんでした。MAGIC.INI の記述されたとおりファイルが存在しません。
通信ゲートウェイが正しくありません。	クライアント側の通信ゲートウェイがサーバ側のものと合っていない。
通信テーブルに同じ名前がありません。	[通信ゲートウェイテーブル] に同じ名前がすでに存在しています。
利用権利設定ファイルをオープンできません。	セキュリティファイル (usr_std.jp) をオープン / 作成できませんでした。

データアクセスエラー

メッセージ	説明
アクセスキーが不正です。	物理ファイルに暗号化のためのアクセスキーが設定されていますが、そのアクセスキーを使用してファイルをアクセスできるように設定されていません。
インデックスが重複しています。同じセグメント値のインデックスが存在します。	SQL コマンド実行中にエラーが起きました。SQL コマンドをサーバに送る際のパラメータが不正です。
このレコードは他のユーザが更新しました - 再読み込みを行います。	他のユーザが同一レコードを更新中のため、レコードロックが発生していたが、そのユーザがレコードのアクセスを終了しました。

メッセージ	説明
このレコードは他のユーザが削除/更新しました.	更新しようとしたレコードは、他のユーザによってすでに変更/削除されていました。
サーバが見つかりません.:	[設定/データベース]で指定された MAGIC サーバの名前が不正です。
サーバに接続できません.:	サーバに接続できませんでした。サーバ名が間違っているかポート番号が違っています。
ソート/一時ファイルを作成できません.	ソート処理や埋め込み SQL の処理で使用する一時テーブルが以下の理由で作成できませんでした。 ソートデータベースが指定されていない。 ソートで指定されているセグメントの数がインデックスのセグメントとして作成できる上限を越えました。
データベースが見つかりません.:	MAGIC.INI ファイルの [GATEWAYS] セクションで定義されたゲートウェイが存在していません。
データベースゲートウェイのバージョンが違います.:	使用しているゲートウェイが、dbMAGIC のバージョンと合っていない。
データベースの初期化ができません.:	MAGIC.INI ファイルの [GATEWAYS] セクションで定義された定義ゲートウェイがテーブルの仕様と合っていないか、通信ゲートウェイがロードされていません。
テーブルがオープンできません. テーブル:	テーブルの構成が、dbMAGIC での定義とデータベースの定義で合っていない。 [設定/DBMS/DBMS 特性] の [テーブルの存在チェック] 欄が No の状態で存在しないテーブルをオープンしようとした。
テーブルが見つかりません. テーブル:	アプリケーションで指定されたテーブルがデータベース上に見つかりませんでした。
テーブルの複製に失敗しました. テーブル:	DBCOPY 関数でテーブルのコピー中にエラーが発生しました。
テーブルロックに失敗しました. テーブル:	[動作環境] ダイアログで [マルチユーザアクセス] を Yes にしてください。ユーザの誰かが、そのテーブルをクローズするまでロックが解除されません。
テーブルをクローズできません. テーブル:	インデックスの付け替え中にエラーが発生したため、テーブルをクローズできませんでした。
デッドロックが起きました.:	2つの独立したトランザクション処理がお互いのトランザクション処理の終了を待っている状態になっています。
トランザクションのアボートに失敗しました.	不正なデータを入力したため、dbMAGIC はトランザクションのロールバックをできませんでした。
トランザクションのオープンに失敗しました.	トランザクションの初期化に失敗しました。このトランザクションはデータベースレベルでは開始できません。
トランザクションのコミットに失敗しました.	テーブルをオープンしてデータの更新を行おうとした際、トランザクションがコミットできませんでした。
トランザクションの内部エラーです.	dbMAGIC の内部的なトランザクション処理を終了しようとしたが、ロールバックに失敗しました。

メッセージ	説明
ファイルが開けません. ファイル:	ヘルプファイルが、[設定/動作環境]の[外部参照ファイル]タブで指定したディレクトリに存在しません。
ユーザ名/パスワード不正のためサーバにログオンできません.:	入力したユーザ名/パスワードが、WindowsNT-Server上に登録されていないか、ローカルログインの権利がありません。
レコードは更新されていました.	更新を行おうとしたレコードは、他のユーザによってすでに更新されていました。
レコードは失われていました.	更新を行おうとしたレコードは、他のユーザによってすでに削除されていました。
レコードロック解除待ちです.:	更新、削除を行おうとした時にデータベースがレコードロックが発生しました。
レコードを作成できません. テーブル.:	予測できないエラーのためにレコードの作成処理に失敗しました。
ロックファイルがオープンできません.	アプリケーションファイルのオープンができませんでした。[設定/アプリケーション]で指定したディレクトリが存在していません。
該当するレコードがありません - 次に位置付けます.	最小のみを指定して位置付け指定したがレコードが見つかりませんでした。カーソルは、指定値にもっとも近いレコードにに移ります。
該当するレコードがありません - 先頭に位置付けます.	位置付け指定したレコードが見つかりませんでした。カーソルは、データビューの最初のレコードに移ります。
該当するレコードがありません - 前に位置付けます.	最大のみを指定して位置付け指定したがレコードが見つかりませんでした。カーソルは、指定値にもっとも近いレコードにに移ります。
警告:変更前の DBMS/データベースが不明です.:	テーブルリポジトリの[データベース]欄を変更すると既設のデータからの移行処理を行います。パスの指定などの誤りで既設データが存在しなかったり、ゲートウェイがロードされていなかった場合に発せられます。
原因不明のエラーです.:	テーブルをオープンすることができませんが、dbMAGICでのエラーではありません。
更新できません. テーブル.:	予測できないエラーのために更新処理に失敗しました。
削除できません. テーブル.:	予測できないエラーのために削除処理に失敗しました。
削除できません.:	権利のないユーザがテーブルを削除しようとした。
処理に失敗しました。他のユーザがレコードを変更しました. テーブル:	レコードの更新のコミットを行う前に、他のユーザがレコードの変更や変更のためのコミットを行いました。
常駐テーブルの削除に失敗しました. テーブル名:	常駐テーブルを削除できませんでした。
常駐テーブルの読込に失敗しました. テーブル名:	常駐テーブルを読み込めませんでした。
新規登録できません. テーブル:	CREATE TABLE コマンドか CREATE INDEX コマンドが失敗した為にテーブルを作成できませんでした。
切断に失敗しました. テーブルはオープン中です. テーブル:	DBDISCNT 関数で指定されたデータベースが使用中です。

メッセージ	説明
定義内容が一致していません.:	テーブルリポジトリでの定義と物理ファイルの定義が異なっています。
読込専用テーブルは更新できません. テーブル:	常駐テーブルか DB テーブルで読込専用ファイルと定義されたファイルを更新しようとした。プログラム設計のミスによるものです。
破損テーブルです. テーブル:	BTRIEVE データテーブルが不良のためオープンできませんでした。該当テーブルをバックアップしてあるならば、そのテーブルをコピーして使用してください。ユーティリティを使用して、破損テーブルを復旧できる場合もあります。
不正な SQL コマンドです。データベース.:	不正な SQL コマンドが発行されました。テーブル名やコマンドの構文を確認してください。
不正なテーブル名です. テーブル:	不正なテーブル名が指定されました。DBMS の命名規約を確認してください。
名前を変更できません.:	リネーム処理に失敗しました。
目的のテーブルは、既に存在しています。作成に失敗しました.:	DBCOPY 関数でコピー先のテーブルがすでに存在しています。

データ定義エラー

メッセージ	説明
「開発モードでのテーブル変換が No」のため、テーブルは変更されません.	テーブル構成を変更しようとしたか、リネームか削除を仕様としました。
BLOB と メモ の項目は混在できません	テーブルの中にあるメモ型のカラムと BLOB 型のカラムの合計が DBMS の制限を越えました。
BLOB の数が DBMS の制限値を越えました	テーブルの中にある BLOB 型のカラムの数が DBMS の制限を越えました。
エラーのあるテーブルがありました.	プログラムチェックユーティリティがテーブルにエラーがあることを見つけました。
カラムインデックスはユニークでなければなりません.	[テーブル特性] ダイアログの [位置] 欄に、ユニークインデックスを指定しなければなりません。
カラム数が多すぎます.	1つのテーブルに登録できるカラム数が、データベースの最大値を越えました。
クラスタ化インデックスとして指定できるのは1つのインデックスだけです.	インデックス特性の [クラスタ化インデックス] 欄に Yes と設定できるのは、各テーブルに1つのインデックスのみです。
データベースが見つかりません.	該当するデータベース用のゲートウェイがロードされていないか、SQL コマンドが発行されたが、データベースが指定されていない。
データ長を0より大きくしてください.	文字型またはメモ型のデータ長が0になっています。

メッセージ	説明
フォーム上のコントロール 変数項目 テーブルのカラム タイプ特性 上記の自動ヘルプ欄で自動ヘルプ以外を指定した場合にエラーが表示されます。	
テーブル DB 名が入力されていません。	SQL テーブルに名前が設定されていません。
テーブル DB 名の長さが DBMS より長くなっています。	データベーステーブル名の名前の長さが、データベースでサポートされている最大値を超えました。データベースを変更すると発せいする場合があります。
ファイルマネージャの異常です。	バックグラウンド処理中にデータサーバに接続を行おうとしました。
メモ項目はインデックスとして使用できません。	メモ型や BLOB 型のカラムはインデックスセグメントとして使用できません。
レコードサイズが大きすぎます。	テーブルのレコードサイズが、使用するデータベースの最大サイズを超えています。
レコードサイズが不正です。 項目番号が無効です。	テーブルにはいくつかのカラムが含まれていません。 インデックスセグメントのカラム番号が指定されていません。 セレクトコマンドでカラム番号が指定されていない。 項目更新コマンドでカラム番号が指定されていない。
再索引モードのテーブルオープン は排他にしてください。	タスクの DB テーブルの [共有] 欄を R=読込または、W=書込 にしてください。オープンモードによって再検索を行います。
重複可のインデックスはデータベース ポジションとして設定できません。	[テーブル特性] ダイアログの [位置] 欄に、指定されているインデックスがノンユニークインデックスに変更された可能性があります。
数値は 18 桁まで有効です	数値型の書式の指定が 18 桁を超えています。

インデックス定義エラー

メッセージ	説明
1 次インデックスの変更はできません。	1 番目のインデックスを変更することはできません。
DB のインデックス名が重複しています。	すでに同じ名前前のインデックス名が存在しています。
インデックス DB 名が入力されていません。	SQL テーブルに定義されたインデックスに名前が設定されていません。
インデックス DB 名の長さが DBMS より長くなっています。	インデックス名は、DBMS でサポートされる長さより短くなければなりません。長いインデックス名をサポートするデータベースからのテーブルの変換を行った場合などに発生します。
インデックスが定義されていません。	テーブルにインデックスが定義されていません。

メッセージ	説明
インデックス定義が重複しています。	インデックスセグメントに同じカラムが定義されています。
セグメントが定義されていません。	インデックスのセグメント数が0になっています。
セグメントサイズが不正です。	インデックスに定義されたカラムの長さが、セグメントサイズを超えました。カラムのデータタイプを変更したた場合に発生します。
セグメントサイズの合計が大きすぎます。	セグメントのサイズが、カラムの最大値を超えました。このサイズには、カラムの記憶形式、データタイプなどによって変わります。
セグメントには NULL 値を設定できません。	Oracle を DBMS として使用する場合、ユニークインデックスとして使用しているカラムに NULL 値可の設定がされている。
セグメントは文字型でなければなりません。	インデックスセグメントにはすべて文字型のカラムを使用しなければなりません。
セグメント数が限界を越えています。	1つのインデックスに登録できるセグメントの数が、データベースの最大値を超えました。
セグメント長を項目長と等しくしてください。	書式欄で指定されたサイズが、指定したデータタイプでの最大値を超えました。
セグメント定義が重複しています	同じカラムをセグメントとして使用しているインデックスが存在します。
デフォルト位置が見つかりません。 テーブルに重複不可インデックスが必要です。	テーブルにインデックスがないか、ROW-IDがないかデフォルトインデックスに設定されたインデックスがユニークなインデックスではありません。

タスク定義時のエラー

メッセージ	説明
@ コマンドは表示用としては文字項目しか使えません。	SQL Where 句では、@コマンドは、文字項目としては使用できません。
「順」番号が無効です。	APG ダイアログのカラム設定欄で不正なカラム番号が指定されています。
BLOB や メモ項目はこの値では使えません。	SQL Where 句では、BLOB 型やメモ型の項目を使用することができません。
BLOB や メモ項目は使えません。	ハイパーリンクや Cookies のパラメータには BLOB 型やメモ型は使用できません。プログラムチェックユーティリティでチェックされました。
BLOB 項目はマージパラメータとして指定できません。	マージ出力コマンドで設定するマージパラメータテーブルの項目には BLOB 型やメモ型の項目を指定できません。
BLOB 項目では 前置/後置の指定はできません	BLOB 型のカラムの前後で A=後置 または B=前置 の指定ができません。
BLOB 項目では 範囲/位置付の指定は出来ません。	BLOB 項目のセレクトコマンドに範囲/位置付けが指定されています。

メッセージ	説明
CNDRANGE 関数はセレクトコマンドの位置付/範囲でしか使用できません。	CNDRANGE 関数は、セレクトコマンドの [位置付] 欄か [範囲] 欄でしか使用できません。
CNDRANGE 関数は他の式の一部分としては使用できません	CNDRANGE 関数は、他の関数のパラメータの中に指定することはできません。
EXPCALC 関数：式テーブルに式がありません。	EXPCALC 関数に指定された式が存在していません。
EXPCALC 関数では再帰型の式を指定できません..	EXPCALC 関数で指定された式は、自分自身です。再起型の指定はできません。
EXPCALC 関数のネストは 5 0 階層までです。	EXPCALC 関数でネストできるのは 50 レベルまでです。
EXPCALC 関数は複雑な式を使用できません、数値のみ使用できます。	EXPCALC 関数で指定できるパラメータは、数値のみです。
HTML/Java/フレームセット フォームは印刷できません。	Java、HTML、フレームセットフォームを出力する場合は、メディア名をテキスト形式プリンタや GUI 形式プリンタに指定できません。
SQL Where 句は常駐テーブルをメインテーブルにしているタスクでは定義できません。	タスクのメインテーブルが常駐タスクになっています。
SQL タスクのネストが深すぎます。	SQL タスクのネストが、2 4 階層を越えました。
SQL フォームはタスクランザクションで実行してください。	SQL 系データベースを使用したバッチタスクのタスク定義ウィンドウでランザクションの設定が No になっています。
SQL のバッチタスクではソート処理は出来ません。	タスクがバッチモードで、ソートの指定がされています。
SQL 文の出力パラメータに基づくテーブル定義が正しくありません。	埋め込み SQL の結果データベースに指定した内容に以下のような誤りがあります。 BLOB 型のカラムの数が DBMS の制限を越えています。 結果データベースに ISAM 系データベースを指定して、検索カラムが NULL を含んでいる場合。
SQL 文の入力パラメータが正しくありません。	親タスクが SQL タスクである子タスクをコールする際のパラメータが不正です。
エラーのあるプログラムがありました。	文法上誤りのあるプログラムです。
カーソルがパークできる項目がありません。	以下の条件のため、コントロールにカーソルとめることができませんでした。 タスクにフォームがありません。 フォーム上にパークできるコントロールがありません。 位置付けや範囲指定処理のためのフォームのためにカーソルをパークできないコントロール (BLOB、イメージ、プッシュボタン) しかありません。
このタグ名は既に存在しています。	マージパラメータテーブルに重複したタグ名が指定されています。

メッセージ	説明
このパラメータ名は既に存在しています。	コールリモートコマンドのパラメータに重複した名前が指定されています。
このフォームは、指定したメディアには出力できません。	Java と HTML フォームを出力する場合は、メディア名をリクエストにするか標準ファイルにしてください。
この公開プログラム名は既に存在しています。	同じ名前の公開プログラム名が他にある場合に表示されます。
この処理ではテンプレート入出力が使いません。	データ出力フォームに、マージテンプレートファイルが指定されています。
サービスが指定されていません	コールリモートコマンドの [パラメータ] ダイアログにサービス名が設定されていません。
タイプが合っていません。 - 項目は数値型でなければなりません。	コールリモートのパラメータとして戻り値と理由コードが、数値型項目で設定されていません。
タイプが合っていません。 - 項目は文字型でなければなりません。	コールリモートのパラメータとしてリクエスト ID が、文字型項目で設定されていません。
ダイレクト SQL の出力パラメータに 範囲は指定できません。 タグ名を入力してください。	SQL コマンドの出力パラメータに範囲が設定されています。 マージ出力コマンドのマージパラメータテーブルにタグ名が設定されていません。
タスクが深すぎます。	実行時のタスクのネストが、255 階層を越えました。
タスクの画面がオープンできません。	オンラインタスクでは、必ず [タスク制御] の [ウィンドウ表示] を ON にしなければなりません。
トランザクションモードはロック方式とは非互換です。	タスクで設定されている、トランザクションモードとロックモードが合っていません。
トランザクションをリトライしています。	タスク定義ウィンドウにて、レコードのトランザクションエラーモードがリトライになっており、トランザクションエラーが発生しました。
トランザクション外のため、ビューはロックされません。	トランザクションのモードがロックの範囲と一致していません。
バッチタスクでは、位置付モードを実行出来ません。	バッチタスクの [タスク特性] で [初期モード] が [L=位置付け] になっています。
パラメータ名を入力してください。	コールリモートコマンドの [パラメータ] テーブルの [パラメータ名] が設定されていません。
ビュー構成は変換できません。	ビューは変更できません。
フォームが大きすぎてコンソールに出力できません。	コンソール画面に表示するフォームのサイズがウィンドウへ表示できるサイズを超えました。
フォームのクラスを 1 以上にしてください。	データ出力コマンドで指定しているフォームがクラス=0 になっています。
プログラムまたは、コマンドプロセスが見つかりませんでした。	OS コマンドを実行しようとしたのですが、コマンドプロセッサか、起動するプログラムファイルが見つかりませんでした。

メッセージ	説明
プログラム設計上のエラーにより実行が中断されました。	タスク制御ダイアログの全てのオプションが No になっているか、インデックスの変更許可が No になっているか、タスク特性で、初期モードが許可されていないモードになっています。
プログラム名が指定されていません。	コールリモートコマンドの [パラメータ] ダイアログに公開プログラム名が設定されていません。
メインテーブルが選択されていません。	APG ダイアログの [メインテーブル] 欄が指定されていません。
メモリが不足しています。	OS コマンドを実行するための十分な空きメモリがありませんでした。
レコードが見つかりません:	V=確認/J=結合 モードでのリンクが失敗しました。要求されたリンクレコードは指定テーブルには存在しません。
加算更新は、この項目では指定出来ません。	項目更新コマンドの加算モードは、日付型や時刻型、数値型以外では使用できません。項目の型が、BLOB、文字型、メモ型、論理型になっています。 項目更新コマンドの加算モードは、オンラインタスクでしか使用できません。
外部結合リンクで参照する項目は事前に定義しなくてはなりません。	結合リンクコマンドの位置付け対象となるセレクト項目は、結合リンクの後で表示されます。
記述の中の項目番号が無効です。	SQL Where 句で定義されている項目が無効です。
警告：式が使用されていません。	プログラムチェックユーティリティが使用されていない定義式を見つけました。
警告：不正なプログラム/タスクです。	コールコマンドで指定したタスク番号かプログラム番号が 0 になっています。
結合リンクでのセレクトコマンドは位置付を同じ値にしてください。	ジョインテーブルで使用されるインデックスのすべてがセレクトコマンドで定義されていません。 リンクジョインの [位置付] 欄の大小は同じ値になっていません。
結合リンクでは重複不可インデックスしか使えません。	タスク定義ウィンドウの結合リンクコマンドでは、重複不可のインデックスしか指定できません。
結合リンクで参照する項目は結合リンクの一部でなければなりません。	結合リンクコマンドの位置付けの設定は、メインテーブルよりリンクテーブルの項目を参照します。
結合リンクで参照する項目は同じ記録形式でなくてはなりません。	結合リンクの位置付けで指定する項目とメインテーブルの項目は、同じ記憶形式になっていません。
結合リンクで使用するテーブルは常駐できません。	結合リンクで使用しているテーブルが、常駐テーブルになっていません。
結合リンクによる位置付は、項目か定数で指定してください。	結合リンクコマンドを使用した位置付けの設定で項目か定数以外を使用しています。
結合リンクの条件指定では自分自身を指定できません。	リンクジョイン (結合リンク、外部結合リンク) で [位置付] 欄にそのテーブル自身を指定することができません。

メッセージ	説明
結合リンクはメインテーブルが SQL テーブルの時のみ定義できません。	タスクのメインテーブルが SQL 系のテーブルではありません。この場合、リンクジョインには使用できません。
結合リンクは同じデータベースを使用しなければなりません。	リンクジョインでは同じデータベース同士でリンクしなければなりません。
結合リンクを使ったタスクではファイルキャッシュは使えません。	タスク制御ダイアログのキャッシュ範囲の指定は、結合リンクを使用したタスクでは無効です。
権利情報を読み込めませんでした。後付トークンがありません。	アプリケーションの権利情報を読み込むことができませんでした。 マージ出力で使用する後付けトークンが指定されていません。
項目は、親タスクのビューか変数または、メインテーブルのものを使用してください。 カラムを選択してください。	リンクテーブルのカラムが使用されています。 APG ダイアログの [選択カラム] テーブルの [順] 欄が全て 0 になっている。
項目番号が無効です。	マージ出力で指定するマージパラメータテーブルに項目または項目式が設定されていません。
作業を中断しました。	ESC キーが押されたことによりプログラムチェックユーティリティが中断しました。
指定されたフォームは空です。	データ入力コマンドで指定されたフォームには入力項目が指定されていません。
式が長すぎます。	SQL Where 句で定義できる式は、4000 桁までです。
実項目が 2 回以上セレクトコマンドで指定されています。	同一タスク内に同じテーブルのカラムをセレクトコマンドで指定できません。
出力マージ処理はメディアがリクエストか標準ファイルの時しか使用できません。	マージ出力コマンドでテンプレートファイルを指定する場合は、[メディア] 欄をリクエストか内部ファイルか標準ファイルにしてください。
出力マージ処理は一時ファイルを使用しなければなりません。	マージ出力コマンドで使用する入出力ファイルがマージファイルではありません。
書込モードでアプリケーションをオープンすることができませんでした。	書込モードでアプリケーションをオープンする権利がありません。
照会モードのためレコードは修正できません。	[動作環境] で照会モードでの修正許可が No になっています。修正モードの子タスクが、照会モードの親タスクの項目を更新しようとした。
設定されているタスク初期モードは使用できません。	タスク特性ダイアログで設定された初期モードがタスク制御ダイアログで許可されていません。
前付けトークンと後付けトークンは異ならなければなりません。	マージ出力で使用する前付けトークンと後付けトークンが同じになっています。
前付トークンがありません。	マージ出力で使用する前付けトークンが指定されていません。
読込エラー #	指定した外部プログラムの実行に失敗しました。

メッセージ	説明
不当なサービス - サーバに割り当てられていません.	コールリモートコマンドのパラメータダイアログに設定されたサービスにサーバが定義されていません。
不当なサービス - サービステーブルに登録されていません.	コールリモートコマンドのパラメータダイアログに設定されたサービスがサービステーブルに存在していません。
不当なサービス - 存在しないサーバに割り当てられています.	コールリモートコマンドのパラメータダイアログに設定されたサービスに対応するサーバが存在しません。
変更不可の項目です.	以下の条件で [修正許可]=No のコントロールに対して更新処理を行おうとしました。 タスクが 修正 / 登録モードで、[カラム特性] ダイアログにて [修正許可]=No になっている項目に対して項目更新処理を行うとした。 タスクが照会モードで、[照会モードでの修正]=Yes の時、以下の条件 データ入力でカラムデータを読み込もうとした。 VARSET 関数を該当するカラムに対して使用した。
変数項目に対する結合リンクは無視されます.SQL Where 句を使用してください.	変数項目を使用して結合リンクコマンドで位置付けを行っています。SQL Where 句を使用してください。

フォーム定義エラー

メッセージ	説明
Active-X のクラスが指定されていません.	HTM フォーム上の Active-X コントロールのクラス特性が設定されていない場合にこのエラーが表示されます。プログラムチェックユーティリティを実行したときのみ表示されます。
HTML テンプレートは読み込むことができません	HTML 用のテンプレートを GUI フォームで読み込むことはできません。
HTML ファイルがありません.	HTML コントロールに HTML ファイル名の指定がありません。
Java テンプレートは読み込むことができません	Java 用のテンプレートを GUI フォームで読み込むことはできません。
Java ファイルがありません.	HTML フォームの Java コントロールに Java ファイル名が設定されていません。
URL を入力してください.	ハイパーリンクダイアログの [URL] 欄か [式] 欄に値が指定されていません。
クラス 0 のテンプレートは読み込むことができません	クラス=0 で登録したテンプレートを クラス>0 のフォームで読み込むことはできません。
クラスが 0 のフォームしか選択できません.	エディットコマンドで指定できるフォームは クラス=0 のものだけです。
このコントロールに対して、使用出来ないデータ式です.	コントロールのデータ欄や型欄で設定した式の結果がコントロールと合っていない場合に表示されます。たとえば、OLE コントロールに文字列の式を指定した時などです。

メッセージ	説明
このコントロールに対して、使用出来ない項目です。	BLOB 項目はイメージコントロールか OLE コントロールのみでしか指定できません。
このタイプのステップは、範囲指定に比べて大きすぎます。	スライダコントロールで、ステップ数の値が、範囲の最大値を超えています。
この名前の項目は他のコントロールで使われています。	HTML フォームで 2 つのコントロールのデータ欄に同じ項目が定義されています。
コントロールの幅は 20 以上にはできません。	平面に設定されたラインコントロールの幅が 20 を越えています。プログラムチェックユーティリティでは、この件はチェックしません。
コントロール名を入力してください。	コントロール名が設定されていません。
サウンドコントロールには、データかサウンドファイルを指定してください。	HTML フォームのサウンドコントロールに以下の指定がない場合にこのエラーが表示されます。 サウンドファイル名 データ欄か式 このエラーはプログラムチェックユーティリティでのみ表示されます。
スライダコントロールのあるタイプには、範囲を指定してください。スライダコントロールでは、連続な範囲を指定してください。	スライダコントロールに範囲指定がありません。 スライダコントロールの範囲欄が連続した値で (A-C というように) 指定されていない。
スライダを使うためには、項目に範囲を指定してください。	スライダコントロールの範囲指定欄に ハイフンを使用した範囲指定がされていません。
セル間隔が限界を超えました。	HTML フォームのスタティックテーブルコントロールの行またはカラムの間隔が限界を超えました。
タイトルの高さが正しくありません。	テーブルコントロールのタイトルの高さがコントロール自身よりも大きい場合に表示されます。
チョイスコントロールに対して、範囲指定が適当ではありません。	ラジオボタンのコントロール特性にて範囲の指定が正しくありません。
チョイスコントロールのあるタイプの範囲指定に重複値があります。	チョイスコントロールの範囲欄の指定に重複した値があります。
チョイスコントロールの範囲が、設定されていません。	フォーム上のチョイスコントロールに範囲が指定されていません。
チョイスコントロールの範囲に重複があります。	フォーム上のラジオボタンの範囲に同じ値が指定されています。
チョイスコントロールを使うためには、項目に範囲を指定してください。	ラジオボタンやスライダの範囲欄に カンマ (,) 以外の区切り文字が使われています。
データまたは、デフォルトイメージファイルを設定してください。	イメージコントロールの以下の欄に値が指定されていません。 データ欄か式 デフォルトイメージファイル名

メッセージ	説明
データまたは、リターンアクションを設定してください。	<p>プッシュボタンコントロールのスタイルをプッシュボタンやハイパーリンクにした場合で、以下のどちらかの設定がない場合に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> データ欄 アクション欄 <p>プッシュボタンコントロールのスタイルをイメージボタンにした場合は表示されません。</p>
データを指定してください。	<p>以下のコントロール以外では、データ欄に項目のシンボル名か式を設定しなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> テキストコントロール テーブルコントロール イメージコントロール プッシュボタンコントロール ラインコントロール Java コントロール HTML コントロール Act-ve-X コントロール
テキストを入力してください。	HTML フォームのテキストコントロールにテキストが入力されていません。
テンプレートファイルのバージョンが違います。	Ver7 以前のバージョンのテンプレートファイルを読み込もうとしました。
ハイパーリンクが指定されているため、テキストは削除されません。	HTML フォームのテキストコントロールからテキストを削除しようとした。ハイパーリンクが設定されているテキストコントロールが連続して配置されている場合、テキストを削除するとこのエラーが表示されます。
フォームサイズが大きすぎます	リポジトリ入力中にフォーム内の表示項目の入力限界を超えました。
フォームに合わせてテンプレートファイルを調整することができません	入力するテンプレートよりもフォームのサイズが小さくなっています。
フォームに指定したコントロール数が多すぎます	フォーム上のコントロールの数が上限を越えました。
フォームのサイズ / 位置の値が大きすぎます。	<p>以下の時に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> フォームの左辺位置が 32767/水平精度 より大きい場合 フォームの上辺位置が 32767/垂直精度 より大きい場合 HTML フォームの左辺位置が 32767/水平精度 より大きい場合 フォームの高さが 32767/垂直精度 より大きい場合 フォームの位置やサイズの値が 0 になっている場合
フォント番号は、1 - 登録番号 以外は指定出来ません。	フォントテーブルで定義された行数以上の値が設定されています。
フレームセットテンプレートではありません	フレームセット用でないテンプレートをフレームセットフォームで読み込むことはできません。
フレームセットテンプレートは読み込むことができません	フレームセット用のテンプレートを GUI フォームで読み込むことはできません。

メッセージ	説明
フレームのハイパーリンクは現在のプログラムを指定しています.	HTML フレームセットフォームのフレームコントロールのハイパーリンクの指定で、公開プログラム名が自分自身を指定しています。プログラムチェックユーティリティでは、この件はチェックしません。
ページヘッダ及びフッタが、ページ長より長過ぎます.	ページヘッダやページフッタの高さの値が、全体のページ長を越えています。
ホットスポットが画像のサイズを超えています.	イメージコントロール上のホットスポットコントロールのサイズ(幅か高さ)が、イメージコントロールのサイズを超えました。
やり直すための情報が無効です	やり直し処理が選択されましたが、やり直し処理用のバッファがクリアされています。
位置は、0 - 100 以外は指定出来ません.	フォーム上のコントロールにて一覧の指定のどれかが、0 か 100 を越えた指定になっています。
基本色番号は、1 - 登録番号 以外は指定出来ません.	基本色定義テーブルで定義された行数以上の値が設定されています。コントロールで指定された色番号が、サポートされている番号を越えています。フォーム上の色の設定を調整してください。
元に戻すための情報が無効です	元に戻す処理が選択されましたが、元に戻す処理用のバッファがクリアされています。
行番号は、1 - 100 までです.	HTML フォームのスタティックテーブルコントロールの行数が 100 を越えました。
式の値と型が一致していません.	コントロールに設定されているデータ欄の式の結果と型が一致していません。
設定値が、数値書式 %d.%d を超えています.	エディットコントロールのコントロール特性で指定した値が、書式と合っていません。
送信/リンクボタンはハイパーリンクでなければなりません.	Java フォーム上のプッシュボタンが送信かリンクの場合、ハイパーリンクの設定が必要です。
同じ項目は 1 つしか指定出来ません.	フォーム上に同じ項目を定義したコントロールが配置されています。
同じ名前のフレームが存在しています.	HTML フレームセットフォームの 2 つのフレームコントロールが同じ名前で定義されています。
不当な HTML テンプレートです	HTML フォームには、HTML フォーム用のテンプレートファイル以外は読み込めません。
不当な Java テンプレートです	JavaL フォームには、Java フォーム用のテンプレートファイル以外は読み込めません。
不当なフォームテンプレートです	TEXT フォームには、TEXT フォーム用のテンプレートファイル以外は読み込めません。
無効な拡張ウィンドウです.	エディットコントロールに指定された拡張ウィンドウは、クラス > 0 のフォームが使用されています。プログラムチェックユーティリティによって表示されます。
無効な行高さです.	テーブルコントロールの行高さがコントロール自身よりも大きい場合に表示されます。

メッセージ	説明
列番号は、1 - 100 までです.	HTML フォームのスタティックテーブルのカラム数が、100 を越えています。

入出力ファイル定義エラー

メッセージ	説明
1 つのタスクには 1 つのリクエストしか指定できません.	1 つのタスクの入出力テーブルには、[メディア] 欄がリクエストの行を 1 つしか指定できません。
このフォームのタイプではヘッダ / フッタ オプションを指定できません.	入出力特性のページヘッダ / ページフッタに、フォームのタイプが HTML/HTML ドキュメント/Java 等のフォームを指定しています。
プリンターテーブルにプリンタが登録されていません.	プリンター一覧よりプリンタが選択された後、プリンターテーブルからすべてのプリンタが削除されました。
プリンタが定義されていません - デフォルトプリンタを利用します	入出力テーブルに登録されているプリンタがプリンターテーブルから削除されました。
部数を指定してください.	入出力特性の部数欄が 0 になっています。式が設定していない場合は 部数は 1 以上にしてください。

UPC/CALDLL 実行時のエラー

メッセージ	説明
ユーザモジュールが見つかりません.	CALDLL 関数で指定された DLL が存在しません。 ユーザプロシジャとして指定したファイル名/モジュール名がありません。
ユーザ関数/手続きが見つかりません.	CALDLL 関数で指定された関数が DLL 内に存在しません。 ユーザプロシジャで指定された関数が DLL 内に存在しません。
ユーザ関数/手続きへの引き数の数が合っていない.	CALDLL 関数やユーザプロシジャの関数定義構造体の引数の個数と dbMAGIC 側で指定しているパラメータの個数が合っていない。
ユーザ関数に定義された引き数のタイプが正しくありません.	CALDLL 関数やユーザプロシジャの戻り値の型が無効または、呼び出し先 (DLL) と合っていない。
ユーザ関数に定義された戻り値のタイプが正しくありません.	CALDLL 関数やユーザプロシジャの戻り値の型が無効または、呼び出し先 (DLL) と合っていない。

ワークグループ開発時のエラー

メッセージ	説明
MVCS のバージョン管理ファイルをオープンできませんでした.	アプリケーションはワークグループ開発モードで、MVCS 関係のファイルのオープン中にエラーが発生しました。
MVCS の未使用ユーザです.	ワークグループ開発上で、CTL 特性の [強制 MVCS キー] を持っていないユーザがこのアプリケーションにアクセスされています。

メッセージ	説明
MVCS ロックファイルにログオンできません。	アプリケーションはワークグループ開発モードで、CTL 特性の MVCS ロックファイルの指定に誤りがあります。
MVCS 稼働中です - ログオンしないでアプリケーションオープンはできません。	ワークグループ開発モード状態のため dbMAGIC にログインしない場合アプリケーションをオープンすることはできません。
アプリケーションの構成要素を読みとることが出来ませんでした。	アプリケーションはワークグループ開発モードで、アプリケーションの各オブジェクト (タイプ、テーブル、プログラムなど) を参照する権利がありません。
アプリケーションをアクセスする権利がありません。	ワークグループ開発上でこのアプリケーションにアクセスするための権利がありません。
アプリケーション特性を参照できません。	アプリケーションはワークグループ開発モードで、CTL 特性を参照する権利がありません。
このアプリケーションは既にログオン済みです。	ワークグループ開発上で、すでに同じユーザ ID このアプリケーションにアクセスされています。
スナップショットファイルを開くことができませんでした。	アプリケーションは、ワークグループ開発モードになっています。該当するアプリケーションのスナップショットファイル (XXSNP.MCF) がオープンできませんでした。
チーム開発中です - マルチユーザアクセスが Yes に設定されていないとアプリケーションオープンはできません。	[CTL 特性] ダイアログで [チーム開発] が Yes になっているが、[動作環境] ダイアログで [マルチユーザアクセス] が No になっています。
バージョン管理ファイルがアプリケーションと合っていません。	アプリケーションは、ワークグループ開発モードになっています。CTL 特性で指定したバージョン管理データベースが他のアプリケーションで使用されているか MVCS ロックファイルの指定が間違っています。
バージョン管理ファイルにメジャーバージョンが存在しません。	該当するアプリケーションのメジャーバージョンファイル (Mvmajrev) が存在していません。
ヘッダバージョンが間違っています。	dbMAGIC のバージョンとバージョン管理マネージャ用の CTL が合っていません。
該当するアプリケーションのスナップショットファイルではありません。	ワークグループ開発状態で、他のアプリケーションが同じスナップショットファイルを使用しています。

リモートコール実行時のエラー

メッセージ	説明
リモートコール：アクセスが拒否されました。	ユーザ名かパスワードが間違っているためアプリケーションサーバから拒否されました。
リモートコール：アプリケーションをオープンできませんでした。	アプリケーションサーバがアプリケーションをオープンできませんでした。
リモートコール：アプリケーション名が指定されていません。	コールリモートのパラメータダイアログに設定されたサービスに対応するアプリケーション名が間違っている。(存在していない)

メッセージ	説明
リモートコール：プログラムが見つかりません。	コールリモートのパラメータダイアログに設定されたプログラム名が間違っている。(存在していない)
リモートコール：プログラム名が指定されていません。	コールリモートのパラメータダイアログに設定されたプログラム名が指定されていません。(このエラーは実行時に表示されます)
リモートコール：メッセージサーバが見つかりません。	アプリケーションサーバ側で参照している MRB が起動されていないか、クライアント側の接続情報に誤りがあります。
リモートコール：リモートアプリケーションが見つかりません。	コールリモートのパラメータで指定したサービスに対応するサーバ側のアプリケーションが見つかりません。
リモートコール：結果ファイルをオープンできません。	コールリモートのパラメータダイアログに設定された結果ファイルが何らかの理由で(パスが間違っていたり読み専用)オープンできませんでした。このエラーはリモートアプリケーションがリクエストに出力した場合に発生します。
リモートコール：実行中にリモートエンジンがアボートしました。	実行中のリモートエンジンが何らかの理由でアボートしました。
リモートコール：接続に失敗しました - ホスト名が不明です。	クライアントが、MRB に接続できなかった場合に発生します。
リモートコール：有効なアプリケーションサーバではありません。	実行中のリモートアプリケーションに対してコールリモートコマンド発行しました。

マージテンプレートの読込エラー

メッセージ	説明
テンプレートファイルエラー：ELSE が重複しています。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の IF-ENDIF 構文内に ELSE のタグが複数あります。
テンプレートファイルエラー：IF や REPEAT タグの間に矛盾があります。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の IF や REPEAT 構文内に不整合があります。
テンプレートファイルエラー：IF-ELSE のタグに不整合があります。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の IF-ELSE 構文内に不整合があります。
テンプレートファイルエラー：IF-ENDIF のタグに不整合があります。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の IF-ENDIF 構文内に不整合があります。
テンプレートファイルエラー：REPEAT-ENDREPEAT の間に他のタグが必要です。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の REPEAT 構文内に他のタグの項目の指定がありません。
テンプレートファイルエラー：REPEAT-ENDREPEAT のタグに不整合があります。行番号:	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の REPEAT-ENDREPEAT 構文内に不整合があります。
テンプレートファイルエラー：タグ名が重複しています。-	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の REPEAT 構文内に同じタグ名が存在しています。

メッセージ	説明
テンプレートファイルエラー：後付けトークンがありません。	マージ出力で使用するテンプレートファイル内の構文内に後付けトークンが指定されていません。
テンプレートファイルのオープン処理の問題です。	マージ出力コマンドで使用するテンプレートファイルをオープンできませんでした。ファイルが存在しないためと思われます。
テンプレートファイルの読み込み処理の問題です。	マージ出力コマンドで使用するテンプレートファイルを読み込めませんでした。ファイルが破損しているためと思われます。

ライセンス管理エラー

メッセージ	説明
Your copy of magic has passed its Expiry Date	dbMAGIC に設定された使用期限の日付を越えました。
ユーザ登録してください。	ユーザ登録処理されていません。
ユーザ登録に失敗しました。登録パラメータを確認してください。	ユーザ登録のパラメータに問題があったため、登録処理に失敗しました。
ユーザ登録時のチェック処理でエラーが発生しました。	dbMAGIC のユーザ登録処理中にエラーが発生しました。
ライセンスがバージョンと合っていない。	使用しているライセンスファイルのバージョンの内容が MAGIC エンジンと合っていない。
ライセンスファイルの読み込みに失敗しました。	ライセンスファイルの設定に間違いがあります。
ライセンスファイルへのチェックインに失敗しました。	アプリケーションが終了中のためチェックイン処理が完了しませんでした。
ライセンスマネージャの初期化に失敗しました。	ライセンスファイルのパラメータに問題があります。
使用ユーザ数の制限を越えました。	ライセンスで許可されている使用ユーザ数の上限を越えました。

リポジトリ入出力エラー

メッセージ	説明
dbMAGIC の項目制限を越えました。	リポジトリ入力中に以下のオブジェクトの入力限界を越えました。 イベント テーブルコントロール メニュー 権利 タイプ
ISN ファイル入力エラー - ISN ファイルは既に存在しています	リポジトリ入力中に重複した ISN 情報が見つかりました。
ISN ファイルの入力は新規アプリケーションのみ可能です	ISN ファイルを含めてリポジトリ入力する場合は、入力対象アプリケーション内にオブジェクトが存在しない必要があります。

メッセージ	説明
ヘルプのサイズが大きすぎます	リポジトリ入力中にヘルプリポジトリ上のヘルプ番号の入力限界を超えました。
入力ファイルにメニューが含まれています。	リポジトリ入力ファイルにメニューデータが含まれている場合、この内容でデフォルトのメニューを上書きするかどうかの確認
表示項目が多すぎるため、リポジトリ入力できません。	フォーム上のコントロールの数が 10000 を越えました。
不正なファイル名です。	リポジトリ入出力ダイアログや、データベーステーブルでクエションマーク (?) が、ファイルのパス名に使用されています。

ユーザメニュー定義エラー

メッセージ	説明
ユーザメニュー名は必須入力です。	[ユーザメニュー名] 欄は必ず入力しなければなりません。

ユーザヘルプ定義エラー

メッセージ	説明
ツールチップ以外は指定できません。	以下のツールチップ欄でツールチップ以外を指定した場合にエラーが表示されます。 テーブルのカラム タイプ特性 フォーム上のコントロール
自動ヘルプ/ツールチップは、ヘルプ画面として設定出来ません	このエラーは以下の場合に表示されます。 カラム特性のヘルプ画面欄に自動ヘルプを設定した場合 タイプ特性のヘルプ画面欄に自動ヘルプを設定した場合 変数のカラム特性のヘルプ画面欄に自動ヘルプを設定した場合 フォームのコントロール特性のヘルプ画面欄に自動ヘルプを設定した場合 フォーム特性のヘルプ画面欄に自動ヘルプを設定した場合
自動ヘルプ以外のヘルプは、設定出来ません。	自動ヘルプは以下の場所で設定できます。 フォーム上のコントロール 変数項目 テーブル上のカラム タイプ特性 上記の自動ヘルプ欄で自動ヘルプ以外を指定した場合にエラーが表示されます。

権利定義エラー

メッセージ	説明
権利が設定されていません。	使用権利の設定が行われていません。

メッセージ	説明
登録権利がありません.	タイプの登録権がないユーザがタイプの入力を行おうとしました。

確認用メッセージ

メッセージ	説明
インデックスを再作成中です - お待ちください ...	データベースのインデックスを作成し直しています。
任意キーで次のページに移ります.	データ出力コマンドの出力先をコンソールにした場合、表示される出力内容を改ページする場合キーボードのどれかを押してください。

2.3 MRB エラーメッセージ集

コード	ニーマニック	メッセージ	意味
4	NO-RESULT		リクエスト先のタスクからリクエストの出力メディアに結果が返ってこなかったことを示します。
20	RT-TERMINATING	リモートコール：実行中にアプリケーションサーバがクローズされました.	アプリケーション処理用のエンジンがリクエスト実行中に終了した場合、このエラーが発生します。
101	BAD-ARGS		リモートコールにてアプリケーションの指定が間違っているか、プログラム名が入力されていません。
102	CNCT-REFUSED-MRB	リモートコール：メッセージサーバが見つかりません.	MRB で使用されるホスト名またはポートが不適当な場合、このエラーが発生します。MRB の接続先のポートが適当かどうか、接続が正常かどうかを確認してください。
103	APP-NOT-FOUND	リモートコール：リモートアプリケーションが見つかりません.	アプリケーションがエンジンによりサポートされていない場合、このエラーが発生します。また、MGREQ.INI ファイルの「Appl=」キーワードで正しくアプリケーションを指定していない場合にも、このエラーが発生します。

コード	ニ-モニ-ック	メッセージ	意味
104	APP-IN-USE	リモートコール：有効なアプリケーションサーバではありません。	アプリケーション処理用のエンジンがすべて、他のリクエストの処理中で、使用できるエンジンがない場合、このエラーが発生します。また、アプリケーションがエンジンによりサポートされていない場合にも、このエラーが発生します。また、MRB のタイムアウトの値が小さい場合にも、このエラーが発生することがあります。タイムアウトの値は、[設定 / サーバ] の「タイムアウト」欄または、MGREQ.INI ファイルの、「BrokerTimeout」キーワードの値が使用されます。
105	MRB-NOT-RSPND	リモートコール：ブローカから応答がありません。	サーバエンジンから I-AM-ALIVE メッセージが送られないまま、MGRB.INI ファイルの「ServerTimeout」キーワードの値（時間）が経過した場合、このエラーが発生します。
106	RT-NOT-RSPND	リモートコール：実行エンジンから応答がありません。	サーバエンジンから I-AM-ALIVE メッセージが送られないまま、MAGIC.INI ファイルまたは MGREQ.INI ファイルの「ServerTimeout」キーワードの値（時間）が経過した場合、このエラーが発生します。
107	CNCT-RESET	リモートコール：実行中にリモートエンジンがアポートしました。	アプリケーション処理用のエンジンがリクエスト実行中にアポートした場合、このエラーが発生します。
110	REQUEST-TIMEOUT	リモートコール：リクエストタイムアウトを越えました。	リクエストされたタスクの処理が完了しない状態で、MAGIC.INI ファイルまたは MGREQ.INI ファイルの「RequestTimeout」キーワードの値（時間）が経過したとき、このエラーが発生します。
111	RQGNRC-ERR-NOT-MRB		
113	RQGNRC-ERR-APPNAME-REQUIRED	リモートコール：アプリケーション名が指定されていません。	リクエストのパラメータにアプリケーション名が指定されていない場合、このエラーが発生します。
114	RQGNRC-ERR-PRGNAME-REQUIRED	リモートコール：プログラム名が指定されていません。	リクエストのパラメータにプログラム名が指定されていない場合、このエラーが発生します。

コード	モニター	メッセージ	意味
115	RQGNRC-ERR-REPLY-QUEUE-MISSING	リモートコール: 応答キューがオープンできませんでした。	
116	RQGNRC-ERR-NO-ENGINE-READY		
130	APP-OPEN-FAIL	リモートコール: アプリケーションをオープンできませんでした。	サーバエンジンによりアプリケーションコントロールファイルのオープンが試行されましたが、その処理に失敗した場合、このエラーが発生します。
131	PRG-NOT-FOUND	リモートコール: プログラムが見つかりません。	指定されたプログラムの公開プログラム名がアプリケーションに見つからなかった場合、このエラーが発生します。
133	ACCESS-DENIED	リモートコール: アクセスが拒否されました。	ユーザ名またはパスワードが不適当な場合このエラーが発生します。また、指定されたユーザにプログラムの実行権利がない場合もこのエラーが発生します。
135	LIMITED-LICENSE-HTTP	リモートコール: インターネット処理に対する制限がかかっています。	サーバエンジンがインターネットリクエスト用のエンジンでない場合、このエラーが発生します。
136	LIMITED-LICENSE-CS	リモートコール: ライセンス上の接続可能数を越えました。	サーバエンジンのリクエストカウントが最大値に達している状態でリクエストが送られた場合、このエラーが発生します。
137	REQUEST-REJECT	エンジンは要求を受け付けることが出来ません。	実行モードから開発モードへの切り替えの際にタイミング問題が発生し、そのため、サーバエンジンによる要求の実行ができなかった場合、このエラーが発生します。
138	RT-ERR-MSG	リモートコール: リモートプログラム実行中のエラーです。	サーバエンジンによりプログラムの実行が試行されましたが、その処理に失敗した場合このエラーが発生します。
146	BIND-HOST-NOT-FOUND	リモートコール: 接続確定に失敗しました - ホスト名が不明です。	MGRB.INI ファイルの「BrokerPort」キーワードに正しいホスト名または、IP アドレスが指定されていない場合、このエラーが発生します。
147	CNCT-HOST-NOT-FOUND	リモートコール: 接続に失敗しました - ホスト名が不明です。	[設定 / サーバ] の [サーバアドレス] 欄または、MGREQ.INI ファイルの「Messaging Server」キーワードまたは「Local Host」キーワードに正しいホスト名または、IP アドレスが指定されていない場合、このエラーが発生します。

コード	ニ-モニ-ック	メッセージ	意味
150	CNCT-REFUSED-MRB	リモートコール：メッセージサーバが見つかりません。	アプリケーションサーバがブローカと接続できません。ブローカが起動されているのであれば、ブローカのホスト名や IP アドレスを確認してください。MGREQ.INI の LOG パラメータを有効にして現象を再現させてみてください。
151	CNCT-RESET-BY-REQ		リクエストの実行中にリクエストとアプリケーションサーバの間の接続がリセットされました。この場合、アプリケーションサーバからリクエストに何も返されません。クライアントやアプリケーションサーバのリクエストをチェックしてみてください。MGREQ.INI の LOG パラメータを有効にして現象を再現させてみてください。
160	RQSPAWN-ERR-EXEC-NOT-FOUND		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] の実行ファイル名が正しくない場合、このエラーが発生します。
161	RQSPAWN-ERR-PATH-NOT-FOUND		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] のコマンドまたは作業ディレクトリのパスが正しくない場合、このエラーが発生します。
163	RQSPAWN-ERR-BAD-LOGIN		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] のユーザ名またはパスワードが正しくない場合、このエラーが発生します。
164	RQSPAWN-ERR-PRIVILEGE-NOT-HELD		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] で指定したディレクトリでコマンドを実行する権利が無い場合、このエラーが発生します。
169	RQSPAWN-ERR-NET-UNREACHABLE		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] で指定したコマンドが渡らなかった場合、このエラーが発生します。 160-169 のエラーコードはコマンドラインリクエストによるエラーとしてブローカのログファイルに出力されるものです。[MRB.EXECUTABLES_LIST] の指定によるエンジンの実行が正常に行われなかった場合に発生します。正しく設定されているかどうかを (パス名、ユーザ名、パスワードなど) 確認してください。

コード	ニ-モニツク	メッセージ	意味
180	EXE_ENTRY_NOT_FOUND		起動しようとしたエントリが MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] および [MRB.REMOTE_EXCUTASBLES_LIST] に存在しない場合、このエラーが発生します。
187	CNCT_REFUSED_REMOTE_MRB		MGRB.INI の [MRB.EXECUTABLES_LIST] で指定したホストにおいて MRB が起動していない場合、このエラーが発生します。
200	RQ-FATAL	リモートコール：一般エラー。	その他のエラー。
201		コードパーティショニング：TCP/IP が初期化できませんでした。	TCP/IP サービスがインストールされていない場合、このエラーが発生します。TCP/IP をインストールしてください。
202	ERR-OPEN-RESULT-FILE	リモートコール：結果ファイルをオープンできません。	コールリモートの [結果ファイル] 欄で指定されたファイルをオープンできない場合、このエラーが発生します。
205	DATA-SRVR	データサーバはメッセージサーバとしては使用できません。	[設定 / サーバ] の [サーバタイプ] 欄が正しく指定されていない場合、このエラーが発生します。
220	OUT-OF-RESOURCES		このエラーメッセージは Winsock が error-10055(Out of Buffer) を返したときに出力されます。

dbMAGICTM



章目次 付録A その他

A.1 dbMAGIC のログファイル一覧	2
-----------------------	---

第A章 その他

A.1 dbMAGIC のログファイル一覧

ここでは、dbMAGIC(MRB や Gateway を含む) が出力するログファイルを一覧で表示します。

dbMAGIC 本体のログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
本体実行時のログ情報 (UNIX 版)	mgrntlog	環境変数： MGRNTLOG(mgenv ファイル内で指 定)	UNIX 版環境作成ガイド (5.2.3)
セットアップ時のログ情報 (UNIX 版)	\$MAGIC_HOME/etc/		UNIX 版セットアップガイド (ログファイルと状態ファ イル)
リポジトリ入力時のログ情 報	xxIMP.LOG(xx: アプリケー ション識別子)		リファレンス (19.1)
バックグラウンドモードの ログ		環境変数”MGBACKG_LOG”	リファレンス (2.3)
タイプ辞書変換時のログ	cnvtyp.log		

MRB のログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
MRB のログ情報		MGRB.INI の [MRB_ENV] セクショ ンの Log パラメータ	リファレンス (15.1) 開発者ガイド - 分散開発編 (5.4)
MRB の起動や終了などの 動作に関する情報	mrbs_event.log		Readme.txt(Ver8.2k3 以降 925 行目)

リクエストのログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
送受信されたメッセージと TCP/IP のログ情報		MGREQ.INI の [REQUESTER_ENV] セクションの Log パラメータ	リファレンス (15.2)

データサーバのログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
ディスパッチャのログ情報	\$MAGIC_HOME/ logs/tcpdispatch.log	環境変数 MGDISPATCHLOG(mgenv ファイルで設定)	UNIX 版セットアップガイ ド (インストール) 開発者ガイド - 分散開発編 (8.2)
データサーバとクライアント のログファイル (mgsrvr) の作成履歴	\$MAGIC_HOME/ logs/mgsrvrlog	環境変数 MGSRVRLLOG(mgenv ファ イルで設定)	開発者ガイド - 分散開発編 (8.2)

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
データサーバと個々のクライアントとのログ情報	\$MAGIC_HOME/ logs/srvr.ProcessID	同上	開発者ガイド - 分散開発編 (8.2)

データベース ゲートウェイのログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
各ゲートウェイのログ情報		設定/DBMS/DBMS 特性のログレベル、ログファイル名 (MAGIC.INI の [DBMS] 各 DBMS の第 8, 第 9 パラメータ)	リファレンス (2.11)

C-ISAM のログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
トランザクション処理のためのログ		サーバ上の MAGIC.INI、または、MGSERVER.INI の [DBMS]C-ISAM の第 6 パラメータ LOGFILE=(ファイル名)	UNIX 版環境作成ガイド (4.1)

通信 ゲートウェイのログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
TCP/IP G/W のログ		MAGIC.INI の [MAGIC_COMMS] セクションの TCP/IP の第 3 パラメータに "TCP.LOG=ファイル名" を追加	

Magic/400DataQueue のログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
DataQueue のログ情報		サーバの mgreq.ini の [MAGIC_MESSAGING_GATEWAYS] MGRSVR03 の第 2、3 パラメータ	Magic/400 SERVER.TXT 212 行目

Magic/400 EASYCOM のログ

種類	デフォルト名	設定箇所	参考
EASYCOM のログ情報		設定/DBMS/パラメータに EAC.LOG=(ファイル名)(MAGIC.INI の [DBMS] AS/400 の第 6 パラメータ EAC.LOG=(ファイル名))	Magic/400 開発ガイド (3 章 Magic/400 ゲートウェイの設定)

dbMAGIC Ver.8.2 用語集

MAGIC
Magic Software Japan K.K.

©1999,Magic Software Japan K.K.

第 1 版 1999 年 2 月 5 日 第 4 版 2000 年 6 月 30 日
発 行 〒 151-0053 東京都渋谷区代々木三丁目二十五番地三号 大東京火災新宿ビル 14 階

Magic Software Japan K.K.